

平成26年度「カリキュラムアンケート」結果の 分析と考察

福井大学高等教育推進センター

F D ・ 教育企画部門

カリキュラム評価アンケートワーキンググループ

平成27年3月

平成26年度「カリキュラム評価アンケート」結果の分析と考察

全体に関する考察と分析

福井大学高等教育推進センター

FD・教育企画部門 横井正信 (教育地域科学部)

【回答率とアンケートの枠組み・実施方法】

本年度行ったカリキュラム評価アンケートは、工学部、教育地域科学部、医学部看護学科においては後期履修科目登録時にウェブ上で実施し、医学科においては後期授業時に実施した。アンケート項目は、3学部共通の質問項目11項目（カリキュラム全般に関する自由記述欄を含む）と各学部のカリキュラムの特性に合わせた学部別の質問項目によって構成されている。また、昨年から、質問の仕方が学部・学科・課程ごとに異なるため共通項目には含めていないが、すべての学部において、「単位の実質化」と関連して授業時間外の学習時間に関する質問項目を設けている。

次に、アンケートの回答率は、教育地域科学部 44.6% (317/710 人)、工学部 32.9% (819/2488 人) と、それぞれ昨年度の回答率（教育地域科学部 46.1%、工学部 35.1%）に近かったが、わずかに低下した。平成24年度のアンケート開始以降、両学部共に回答率が50%を切る状況が続いており、回収率を高めるためのアンケートの実施方法の改善に取り組んでいく必要があると思われる。

一方で、医学部におけるアンケート回答率は医学科 86% (昨年は 62%)、看護学科 69% (昨年も 69%) となっており、特に医学科において回答率の大幅な上昇が見られた。医学科においては授業時にアンケートを実施しており、高い回答率の理由の一つと考えられるが、看護学科の回答率も比較的高く、文京キャンパスにおいても医学部における取り組み方法を参考にすべきであると考えられる。

【共通項目に関する分析と考察】

(1) 学部の理念や目標、(2) 学科・課程の教育理念や目標に対する理解

平成25年度と比較した場合、学部の理念や目標に関しては、3学部全体で「理解している」が17%から10%へ、「だいたい理解している」が61%から60%へと変化した。

「だいたい理解している」学生の比率に大きな変化はないものの、「理解している」学生の比率が低下したため、両数値合計で78%から70%へと低下した。また、学科・課程の教育理念や目標に対する理解に関しても、両数値合計で78%から72%へと低下した。学部や学科の理念、目標について基本的に理解している学生の比率は前回調査では8割近くに達したが、今回は7割あまりへと低下したと言える。

ただし、学部・学科・課程ごとに見ると、看護学科では学部の理念・目標を「理解している」「だいたい理解している」と回答した学生の比率が82%、学科の理念・目標につい

ては 84%と平均を上回る高い比率に達しており、学部・学科・課程によって理念・目標の理解度にはかなりの差が見られる。

各学部・学科・課程においては、オープンキャンパスの実施、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの整備、入学時のガイダンス、大学教育入門セミナー等の初年次教育の改善等を通じて、受験生及び入学生に対して、様々な機会に各学部・学科・課程の理念や目標に関する説明の努力が行われているが、それらの取り組みをどのようにすればより効果的なものにすることができるかについて、看護学科の例等を参考に、情報共有する必要がある。

(3) 各学年で履修すべき科目に対する理解、(6) 必修・選択必修・選択科目の区別に対する理解

各学年で履修すべき科目に対する理解に関しては、3 学部全体で昨年と比較して「理解している」が 33%から 27%へ、「だいたい理解している」が 54%から 58%へ、両数値の合計で 87%から 85%へとわずかな変化を示しただけで、昨年の調査とほぼ同一の結果となった。必修・選択必修・選択科目の区別に対する理解に関しても、「理解している」が 40%から 36%へ、「だいたい理解している」が 48%から 51%へと変化し、両数値の合計では 88%から 87%へとほとんど変化が見られなかった。

これらの結果から、各学年で履修すべき科目や必修・選択必修・選択科目の区別に関しては、85%を越える学生が基本的に理解しており、昨年同様、懸念すべき状態にはないと考えることもできる。ただし、各学年で履修すべき科目や必修・選択必修・選択科目の区別を「あまり理解していない」あるいは「理解していない」学生が 15%おり、必修、選択必修、選択科目の区別に関してもそれに近い比率で存在している。

他方、これらの質問項目に関しても、看護学科の場合には履修すべき科目を「理解している」あるいは「だいたい理解している」学生の合計比率は 97%、必修・選択必修・選択科目の区別についても 97%とほぼ全員が理解している。

このような差異は、学部・学科のカリキュラム構成や科目選択の幅にも大きく影響されていると考えられるが、今後とも、各学科・課程及び助言教員等による指導や、カリキュラム・マップの整備等を通じて対策を講じていく必要がある。

(4) シラバスの活用度

シラバスの活用度に関しては、3 学部全体で昨年と比較して「活用している」が 38%から 31%へ、「ときどき活用している」が 41%から 48%へと変化し、両数値合計では 79%と昨年と変化がなかった。8 割近くの学生はシラバスを何らかの形で利用しているが、逆に言えば、2 割あまりの学生は依然としてシラバスを「あまり」あるいは「まったく」活用していない。

この質問項目においても学部や学科・課程によってもかなりの差が見られる。必修科目の多寡がこのような差の一因になっている（必修科目が多ければ、学生にとってはシラバ

スを見る見ないに関係なく履修しなければならない) ことも考えられるが、必修科目が多いと思われる看護学科における活用度が極めて高い(両数値合計で 96%) ことは、シラバス活用の差の理由がそれだけではないことを示している。また、本来は、選択科目が多いからこそシラバスを活用し、履修する科目を選ぶという姿勢が重要である。教員側も授業の開始時にシラバスをプリントアウトしたものを配布したり、シラバスの内容をあらためて説明する等して、学生にシラバス活用を促し、2 割近くの学生が授業の全体的内容を十分確認せずに受講している状況を改善していく必要がある。

(5) 卒業要件に対する理解

卒業要件に対する理解に関しては、3 学部全体で昨年と比較して「理解している」が 37% から 31% へ、「だいたい理解している」が 50% から 54% へと変化し、両数値合計で 87% から 85% への変化となって、昨年とほぼ同じ値となった。この数値に関しても、学生の大多数は卒業要件を理解していると肯定的にとらえることもできる。ただし、批判的にとらえれば、本気で卒業しようと考えている学生にとっては卒業要件の理解は本来 100% であるべきであるにも拘わらず、実際には平均で 15% の学生が卒業要件を理解できていないということもできる。また、他の質問項目と同じく、卒業要件の理解度に関しても、学部や学科・課程によって 68% から 97% とかなりの差が見られる。

このような状況の背景としては、①低学年次の学生にとっては、卒業は数年先のことであり、未だその要件を完全に把握する必要性に迫られていない、②教務課の手厚いサポートがあるがゆえに、学生、教員共にそれに依存し、卒業要件を理解する努力を怠っている、③学科・課程によっては必修科目が多く、それらを履修していけば自動的に卒業になるという潜在的意識がある、④カリキュラムの構造や資格取得に必要な条件が複雑な学科・課程では、卒業要件を完全に理解することにはかなりの努力を要するといった諸要因があることが考えられる。このうち、特に②と④の要因が存在する学部・学科・課程においては、教員側もそれらの要件をあらためて確認し、学生を指導できる体制を整えておくことが望まれる。

(7) 再試験・追試験の手続きに対する理解

再試験・追試験の手続きに対する理解に関しては、3 学部全体で昨年と比較して「理解している」が 22% から 14% へ、「だいたい理解している」が 34% から 37% へと変化し、両数値合計では昨年の 56% から 51% へとやや低下した。ただし、昨年の調査では、授業を欠席する際の届けに関する質問が含まれていたため、単純には比較できない面もある。再試験・追試験の手続きについて基本的に理解している学生の比率が 5 割台という数字自体が低いことは確かである。ただし、教育地域科学部の分析でも指摘されている通り、実際の授業では、成績判定の方法は期末試験方式だけではなく、授業期間中複数回にわたるレポートあるいは期末レポートの提出、調査研究の発表、学外での実習成果の評価等、様々な方法が用いられており、再試験、追試験の方法も必ずしも単一ではないことから、

学生の理解が不十分になっている可能性がある。従って、教員側が授業期間の最初に学生に対して成績評価の方法や基準を明確に説明するとともに、試験前等に再試験や追試験の手続きについても再度説明しておくことが望ましい。

(8) オフィスアワーの活用度

オフィスアワーの活用度に関しては、3学部全体で昨年と比較して「活用している」が7%から5%へとわずかに減少したのに対して、「ときどき活用している」が13%から23%へと増加した。両数値合計では20%から28%に上昇し、オフィスアワーを何らかの形で活用している学生が増加しているという傾向が見られる。しかし、なお7割以上の学生がオフィスアワーを「あまり」あるいは「まったく」利用していないという状態が続いており、学部別の分析でも指摘されているように、現状ではオフィスアワーは形骸化しているという面が否めない。ただし、看護学科においてはオフィスアワーの活用度は49%と相対的に高く、昨年(38%)と比べてもかなり上昇しており、教員側の努力の跡が見られる。

昨年も指摘したところであるが、オフィスアワーを取り巻く状況は各学部・学科・課程によって異なっている面があり、それぞれに適した設定方法について検討する必要がある。また、学生と教員の接触頻度は学年が上がっていくにつれて上昇し、研究・卒論指導等で学生が教員のもとを訪れることも多くなっていくと思われる。従って、特に低学年を中心に、オフィスアワー以外にも授業外の時間に学生と教員が話し合う機会を積極的に設け、学生が教員に相談しやすい雰囲気を作るといった工夫も必要であろう。

(9) 卒業後の将来展望・目的意識

卒業後の具体的な将来展望・目的意識を「持っている」と回答した学生は、3学部全体で昨年と比較して23%から21%へ、「だいたい持っている」と回答した学生は43%から49%へと変化し、両数値合計で66%から70%へと上昇した。将来展望・目的意識を持っている学生の比率が医学部医学科では81%、看護学科では92%と平均より10~20ポイント高くなっており、これらの学科が特定の職業と明確に結びついていることを反映している。これに対して、将来展望・目的意識を持つ学生の比率は、教育地域科学部では75%、工学部では58%と医学部と比べて相対的に低くなっており、3学部平均では、なお3割の学生が将来展望・目的意識を「あまり」あるいは「まったく」持っていない状態となっている。

教育地域科学部地域科学課程や工学部の学生の就職先は、医学部や教育地域科学部学校教育課程の場合と比べて多様であり、将来展望や目的意識を持つのに時間がかかる面があることは否めないが、学生ができるだけ早い時期からそれらを持てるように努力することが必要であることも確かである。

この点に関しては、工学部の分析でも指摘されているように、本来のカリキュラム以外の場においても、教員、学生課、就職支援室等の連携のもとに学生が将来展望や目的意識を持てるような成長を支えていくことが必要であり、学生が自らの成長を意識できるよ

うな「PDCA サイクル」確立の工夫も検討していくべきであろう。また、教育地域科学部の分析においても指摘されているように、積極的な意味で自らの進路を変更したいと考える学生に対して、（安易な適用は控えるべきであるが）転学部・学科・課程をさらに柔軟化できないかについても検討すべきであろう。

(10) 将来設計に対するカリキュラムの有用性

カリキュラムが自分自身の将来設計に「役立っている」と回答した学生は、3学部全体で昨年と比較して20%から16%へ、「まあ役だっている」と回答した学生は56%から60%へと変化し、両数値合計では昨年と同じく76%であった。各学部の分析においても指摘されているが、学生の将来展望・目的意識とカリキュラムの有用性に対する評価は連動している面があり、カリキュラム自体を改善していくことももちろん必要であるが、その際には、将来展望・目的意識の向上との連動性を意識した改善を行っていくことが重要である。

この質問項目においても、看護学科ではカリキュラムが将来設計に有用であると答えた学生の比率は97%と極めて高い値を示しており、同学科においては、学生の明確な将来展望・目的意識に応えるべく整備されたカリキュラムが提供されていることに対して高い評価が得られていることがうかがえる。現在、3学部とも学部改組やカリキュラムの改正を計画しており、平成28年度からは新しい組織とカリキュラムに移行する予定である。その際には、看護学科が将来の職業と明確に結びついていることを別としても、同学科におけるこうした取り組みの成果は全学的に参考とされるべきものである。

【全学】

アンケート実施期間: 2014/12~2015/2

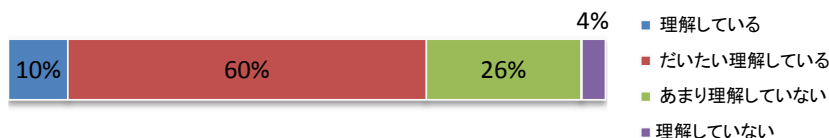
対象人数: 3910人 回答人数: 1708人 回答率: 43.7%

(1) 学部の理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	175
だいたい理解している	1020
あまり理解していない	436
理解していない	67



(2) 課程の教育理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	185
だいたい理解している	1035
あまり理解していない	414
理解していない	66

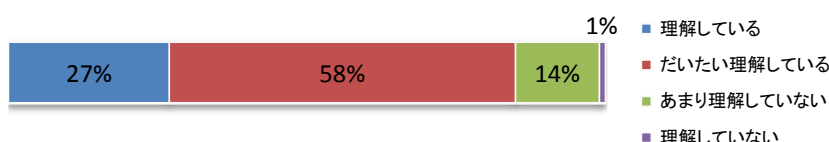


(3) 4年間または6年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	462
だいたい理解している	988
あまり理解していない	230
理解していない	19

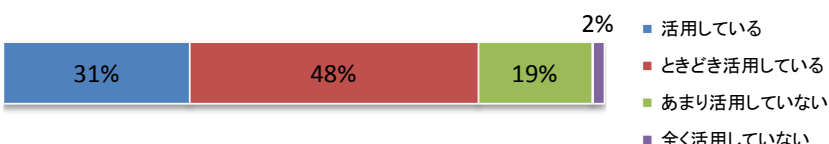


(4) シラバスを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

(人)

活用している	517
ときどき活用している	821
あまり活用していない	324
全く活用していない	34

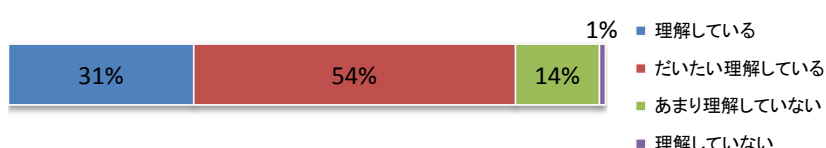


(5) 卒業要件を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	525
だいたい理解している	912
あまり理解していない	240
理解していない	22

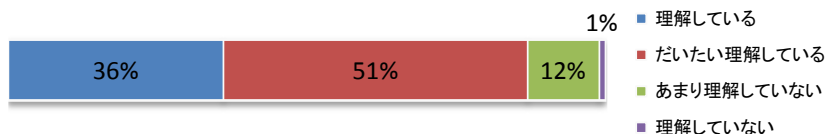


(6) 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	608
だいたい理解している	877
あまり理解していない	197
理解していない	18

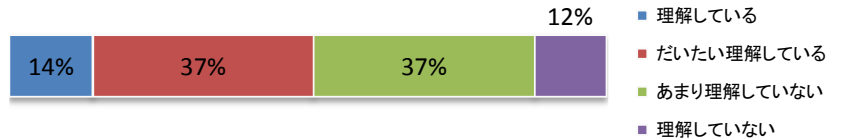


(7) 再試験・追試験を願ひ出る際の条件や手続きを理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

(人)

理解している	232
だいたい理解している	634
あまり理解していない	623
理解していない	203

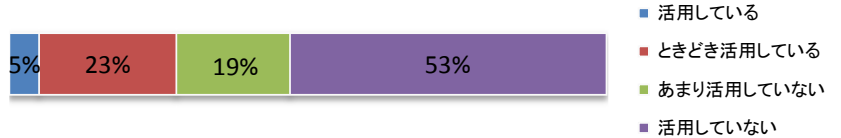


(8) オフィスアワーを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

(人)

活用している	80
ときどき活用している	402
あまり活用していない	320
活用していない	896

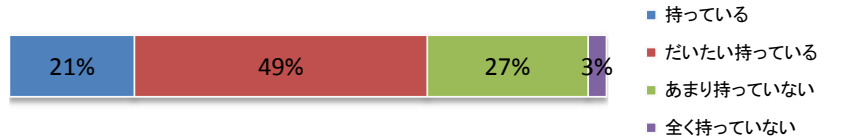


(9) 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

・持っている ・だいたい持っている ・あまり持っていない ・全く持っていない

(人)

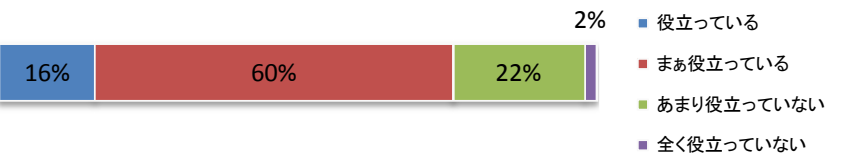
持っている	350
だいたい持っている	833
あまり持っていない	459
全く持っていない	55



(10) 課程のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

・役立っている ・まあ役立っている ・あまり役立っていない ・全く役立っていない

役立っている	263
まあ役立っている	1019
あまり役立っていない	377
全く役立っていない	38



教育地域科学部の分析と考察

松友 一雄 (教育地域科学部)

【各項目に関する分析と考察】

(1) 学部の理念や目標を理解、(2) 課程の教育理念や目標を理解について

昨年度と比較して、項目1については77%→75%、項目2については80%→77%とほぼ横ばいの状態である。各課程やコースが入学時に行われるガイダンスや各授業の中で学部や課程の理念や目標について丁寧に説明する機会を設けていることによって殆どの学生については教育理念や目標を理解した上で学生生活を始めていることがわかる。

しかしながら、学校教育課程、地域科学課程も、そのカリキュラムの構成原理や身に付けるべき能力や達成すべき目標を様々な形で明文化して学生に示していることを考えると、8割弱の理解しか得られていない現状は問題であるといえる。カリキュラム・ポリシーやスタンダードなど明文化されたもの自体が学生にとってわかりやすいものになっているのかという点を省察する必要がある。

(3) 各学年で履修する科目に関する理解、(6) 必修・選択科目に関する理解

両項目共に、昨年度とあまり変容のない結果となっている。項目3に関しては、理解していない学生の割合は昨年と同様10%、項目7では14%→12%となっている。

こうした履修の順序や履修要件に関する理解は、受講する姿勢や目的意識に深く関係しており、理解できていない学生の学習効果の低下が懸念される。入学時のガイダンスだけでは不十分であるため、各課程やコースにおいて、各学年でその都度理解を深める機会を設けるとともに、助言教員を中心に理解の低い学生には個人的に説明する機会を設けていくことが必要である。

(4) シラバスを活用している。

シラバスを活用しているかという質問項目は本年度からのものであるため、本年度の回答だけを分析の対象とする。シラバスを活用している学生の割合は78%でありこれを多いと見るのか少ないと見るのかについては判断の難しいところである。

むしろ、2割ほどの学生がシラバスを見ずに受講する授業などを決めている実態のほうが問題であろう。こうした学生は授業内容を理解せずに受講手続きをしたり授業を受けていたりするのだから、主体的な学習を望むことが難しく学習効果も低いといえる。シラバスをもっと学生たちに活用しやすい形に改善するか、授業開始時に各教員がシラバスを用いて授業ガイダンスを行うようにする必要がある。

(5) 卒業要件の理解、(12) 教育実習の着手条件の理解

両項目共に昨年度とほとんど変わらない実態がある。卒業要件については、92%の学生が理解しており、教育実習の着手条件については54%の学生しか理解していない。

これは、昨年の分析においても指摘したことではあるが、こういった点に関する理解のなさが、卒業できなかつたり、教育実習に着手できなかつたりする事態を招いているわけではないという現実がある。これは教務課の手厚いサポートがあるからなのであるが、一方でそれ故に学生は自分でこういったことを理解しようとしなない。留年を回避するためのセーフティーネットを教務課が担っていることをいいことに教員側にもこうした点に関する無関心と理解のなさが有ることが問題である。教育実習、教員免許、卒業要件などに関する理解を深める機会を教員も学生も持つ必要がある。

(7) 再試験や追試験を願い出る際の条件・手続きの理解

再試験や追試験を願い出る際の条件や手続きに関して理解している学生は全体の33%と低い。実際には教育地域科学部では1回のテストよりも、数回のレポートなどの提出で継続的に評価を行う科目も多く、こうした事情が低い理解の原因になっていると推察できる。しかしながら、こうした点の不理解が原因で単位の取得ができなかつたり、留年になってしまう学生も居るであろうから、各教員がテストの前にはこうした手続きに関する注意喚起と説明を行う必要がある。

(8) オフィスアワーの活用 (15) 教員の履修指導について

オフィスアワーの活用状況については、昨年度と比べて20%→29%と9%向上している。しかし実態としては、昨年同様に満足できるものではない。周知についても、利用についても、授業に欠席しがちであったり、孤立していたりする学生たちのセーフティーネットとして機能できていないことが指摘できる。

また、教員の履修指導については35%の学生が適切であると感じていない実態がある。これは、教員自身がカリキュラムや科目履修について知識が少ないという実態を反映したものであり、シラバスなどの記入の際に他の科目やカリキュラム全体の中で自分の開講する科目がどのような位置づけになっているのかといった点を改めて見直し理解を深めていく必要が有ることを表している。

また、教官と直接、対面コミュニケーションが苦手な学生も増えており、教員と学生の人間関係を構築することが難しい場合も増えている。メールなど間接的なコミュニケーションによって学生の悩みや考えを聞く場を設けていくことも必要である。

(9) 卒業後の展望や目的、(10) 将来設計に役立つカリキュラム

学校教育課程、地域科学課程それぞれに卒業後の進路は異なっているものの、25%の学生が卒業後の進路に展望が持てていない実態は深刻である。同様に、カリキュラムに対する有用感を感じていない学生も23%存在している。実数にすると80人前後の学生がそう

感じている。特に学校教育課程は教員になることが卒業後の進路であり、そのためのカリキュラムが設けられている。教育実習前後で教師になることを諦める学生やなることを望まない学生が少なからず出てくるが、こうした学生が進路変更する機会は設けられていない。地域科学課程がこうした学生の逃げ場になることは避けなければならないが、肯定的に自らの進路を変更できるような機会を設けていく必要が有ると指摘できる実態がある。地域科学課程の学生にも教員免許を取る機会を設けるなど両課程のカリキュラム上での交流は進んできているが、問題は学校教育課程の学生の中に授業の受けていくにつれて「教師になりたくない」と感じる学生が増加している点に有る。

(13) カリキュラムの構成について

カリキュラム全体の構成については、例えば学校教育課程では教員として必要な力をバランスよく取得できるカリキュラムになっているかという点や履修の順序などについて学生たちが判断したものであると考えられるし、地域科学課程についても同様にバランスや順序についての判断がなされているものであると考えられる。あまり意識や理解を向けていない学生も少なからずいることを前提に考えると、10%近くの学生がネガティブな回答をしていることが気になる点である。具体的には自由記述などの中にあるように、授業の重なりや配置などについては時間割のレベルで見直しが必要であるし、授業の詰め込みすぎについては、取得希望の教員免許の種類や数などを見直していく必要がある。

(14) 興味や学習意欲の増加

学生たちの専門的な分野に関する興味や意欲を喚起できているかどうかをとらえたこの項目では、その実感を持った学生が全体の 57%と約半数しかいないことが明らかになった。これは、専門分野に関する理解が充分ではないのか、もしくは授業そのものが学生にとって能力がついて面白いものとして構成されていないのか、講義型の授業が多く、学生が主体的に学習できる状況にないのか、いずれにしてもその問題の本質を具体的に把握する必要がある。

(17) ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの関係性

ポジティブにせよネガティブにせよ、90%の学生が積極的な判断を回避しているところから考えると、ディプロマ・ポリシー自体に対する理解や関心の浅さがうかがえる。そもそもディプロマ・ポリシー自体が大変抽象度が高く、大きな方向性を示しているにすぎないため、学生自身もカリキュラムとの適合性を実感できる場面が少なかったことによるものであると推測できる。

(18) カリキュラム・ポリシーに関する実感

【学校教育課程】

学校教育課程で育成することを目指している5つの能力の習得について、6割から7割の学生たちは習得できているもしくは習得できるという実感を持っていることがわかる。項目によって僅差の差異が見られるものの全体としては同様の傾向が見られる。

これは3割の学生がそう思っていないという深刻な実態を表しているものであり、カリキュラムポリシーに沿った授業が出されているか、個々の授業だけではなくカリキュラム自体の体系性や系統性が教員の壁を超えて検討されなければならない。

【地域科学課程】

地域科学課程で育成することを目指している4つの能力の習得についても、学校教育課程と同様の傾向が見られ、カリキュラムポリシーに沿った授業が出されているか、個々の授業だけではなくカリキュラム自体の体系性や系統性が教員の壁を超えて検討されなければならない。

(19) 1日の学修時間

1日の学修時間についての調査は今年が初めてなので経年変化を追うことは出来ないが、一日に1時間ほどしか学修を行っていない学生が過半数近くいることは非常に問題である。休日も含めた平均時間であるから、そういう意味では2時間以内の学生も含めた割合ではほぼ8割の学生が十分な学習時間を確保しているとは言えない。

こうした状況に対して、教員も授業のみではなく、課題などを出して学習時間を増やすようにしていかなければならない。また、専門的な興味や関心を高める工夫を施していくことで学生自身が自ら学修に取り組むように働きかけていかなければならない。さらに、サークル活動等の中にも学問的な領域のサークルを設置して学べる環境を整備していくことも必要である。

(20) 学修内容の消化と学修時間、(21) 学修内容の消化

学修時間の状況と学修内容の消化に対する実感はほぼ比例する結果となっている。先の分析で扱った学修時間が極めて少ないという実態から考えると、消化できるための十分に時間を使っていると答えた学生もその真偽の程が知れる結果であると言わざるをえないが、自分自身の判断では十分であると考えている学生も少なからずいることは明らかである。この項目の分析が難しいのは、実際の学修時間の多寡とは関係なく、学生自身の判断であるという点であろう。

しかしながら、学修内容の消化についても、それに費やした時間についても適切だと実感できていない学生の割合が過半数を超えていることは問題である。学生の自己責任に任されているとはいえ、人材育成機関としての大学の役割を十分に果たしきれていないという実態が明らかになってきているわけであるから、こうした実態に対する具体的な

対策を考えていく必要がある。強制的に学修時間を伸ばすことではなく、学生自らが自分の生活の中で専門性を高めていく学修に取り組めるようにするための環境整備、例えば大学のサーバーにこうした自主学習を支援するための e ラーニングプログラムを置き、必要なときに学習できるようにすることもこれからは必要となると考えられる。

【自由記述に関する考察】

昨年と同様に、カリキュラムが密になりすぎていて、履修上バッティングしたり、自主学習の時間が確保できないなどの問題点を指摘する学生がいる。クォーター制などの取り組みを進めていくことになっているが、学習の密度を高める工夫によってこうした問題が解消できるかどうか。

また、カリキュラムの内容について、以下の二点の指摘が学生からなされていることを指摘しておく。

- ・他の大学に比べて教科専門の先生の数が少なく専門性を高めることに不安を感じる。
- ・教職科目の必修の授業にもかかわらず、教員採用試験に必要な教育原理や教育心理などを扱わないのは疑問を感じる。

学生たちの間でも、教員配置のレベルや授業内容のレベルに至るまで、他大学との相対化が進められており、こうした情報が彼らの後輩や高校へ流れていく可能性も高いといえる。独創的な教員配置や授業内容へ急進的に傾斜するだけではなく、他大学と比較されても学生が充実感を感じられるような確実性の高い教員配置や授業内容の構築が必要である。

【全体の考察】

昨年度と比較して、おおよそどの項目もそれほど変化していない実態を捉えている。カリキュラムに関する問題が恒常的に存在しているし、その解決にもまた時間がかかる上に多様な手段でじっくり解消すべきであることを示唆している。

二年連続して、教育地域科学部では回答率が過半数を下回っていることを考えると、今回、回答していない 400 人弱の学生たちの声は、おそらく肯定的な意見ではないのだということを考える必要がある。シラバスの利用にしても、カリキュラムに関する有用性にしても、おそらく分析で得られた実態をはるかに超える深刻な実態があるのではないだろうか。これは、アンケートそのものに対する飽和感と不信感が有るのだと考えられる。報告書の作成のためのエビデンスを得るために、たくさんのアンケートを学生に強いている現実が有る。また、アンケートだけではなく、学部長懇談会などでも学生の意見を把握しているが、なかなか授業内容や方法が改善されない教師への不信感もある。

このアンケートもどのようにして学生たちに結果を還元していくのかという議論を深め、学生たちがカリキュラムや授業について意見を出す場として形作っていかねばならない。

【教育地域科学部】

アンケート実施期間: 2014/09/17(水)~2013/10/20(月)

対象人数: 710人 回答人数: 317人 回答率: 44.6%

(1) 学部の理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	27
だいたい理解している	209
あまり理解していない	68
理解していない	13



(2) 課程の教育理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

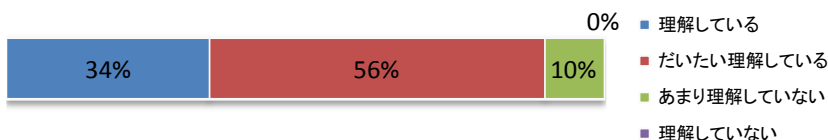
理解している	30
だいたい理解している	217
あまり理解していない	57
理解していない	13



(3) 4年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

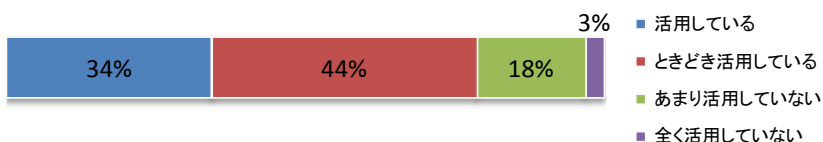
理解している	107
だいたい理解している	177
あまり理解していない	32
理解していない	1



(4) シラバスを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

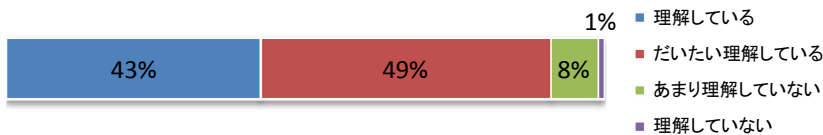
活用している	108
ときどき活用している	141
あまり活用していない	58
全く活用していない	10



(5) 卒業要件を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

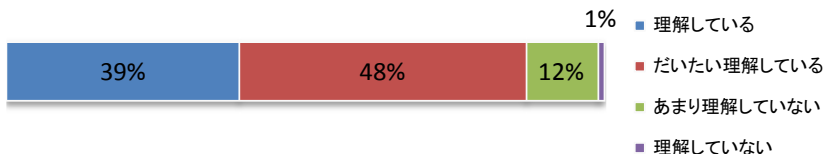
理解している	136
だいたい理解している	154
あまり理解していない	25
理解していない	2



(6) 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

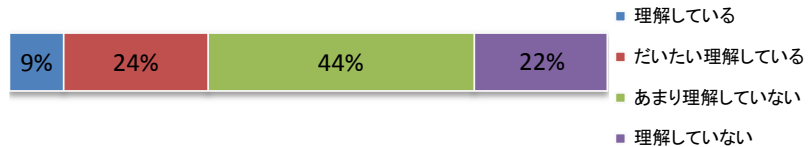
理解している	125
だいたい理解している	152
あまり理解していない	37
理解していない	3



(7) 再試験・追試験を願ひ出る際の条件や手続きを理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

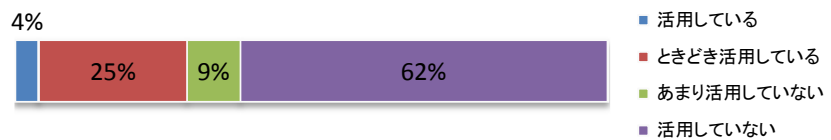
理解している	30
だいたい理解している	77
あまり理解していない	140
理解していない	70



(8) オフィスアワーを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

活用している	12
ときどき活用している	79
あまり活用していない	29
活用していない	197



(9) 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

・持っている ・だいたい持っている ・あまり持っていない ・全く持っていない

持っている	87
だいたい持っている	147
あまり持っていない	73
全く持っていない	8



(10) 課程のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

・役立っている ・まあ役立っている ・あまり役立っていない ・全く役立っていない

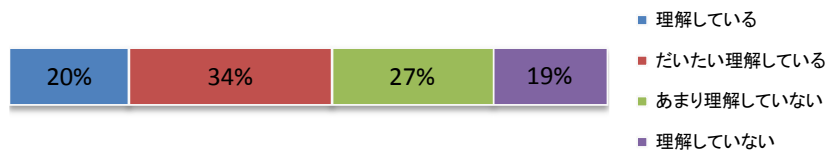
役立っている	61
まあ役立っている	181
あまり役立っていない	67
全く役立っていない	6



(12) 教育実習の着手条件を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

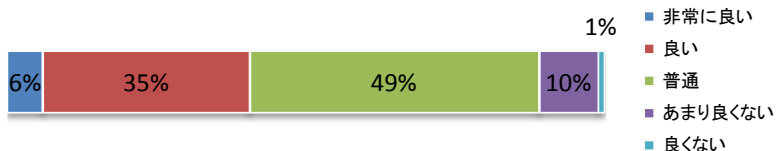
理解している	63
だいたい理解している	107
あまり理解していない	84
理解していない	61



(13) 履修しているカリキュラム全体の構成(科目構成、開講時期など)について。

・非常に良い ・良い ・普通 ・あまり良くない ・良くない

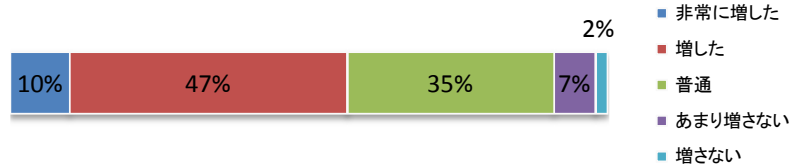
非常に良い	18
良い	109
普通	153
あまり良くない	32
良くない	3



(14) これまでの履修を通して、大学で専門的に学びたいと考えている分野に対する興味や学習意欲が増したか。

・非常に増した ・増した ・普通 ・あまり増さない ・増さない

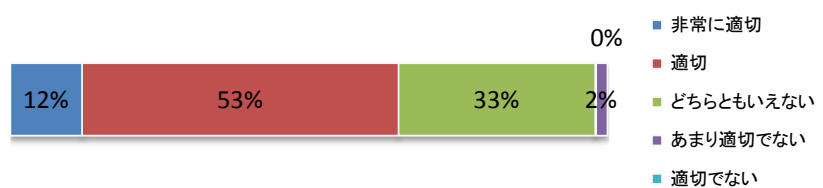
非常に増した	30
増した	147
普通	111
あまり増さない	22
増さない	5



(15) カリキュラムや各科目等を履修する上で、教員の助言・指導は全般的に適切か。

・非常に適切 ・適切 ・どちらともいえない ・あまり適切ではない ・適切でない

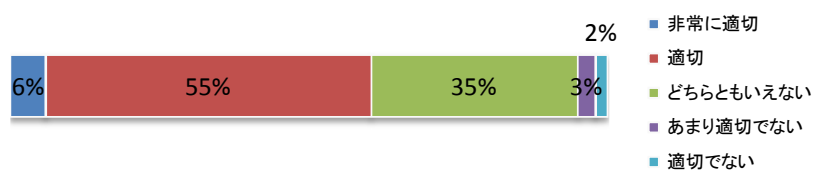
非常に適切	37
適切	166
どちらともいえない	105
あまり適切でない	6
適切でない	1



(17) 教育地域科学部では、ディプロマポリシーにおいて、①子どもへの深い理解と子どもの主体的な学びを組織する専門的・実践的な力量を備えた学校教員の養成、②地域の特性と課題に対する関心と意欲をもち、地域や国際社会の発展に貢献できる人材の養成を教育目標としています。教育地域科学部のカリキュラムは、上記の教育目標に照らして適切だと思うか。

・非常に適切 ・適切 ・どちらともいえない ・あまり適切ではない ・適切でない

非常に適切	18
適切	172
どちらともいえない	109
あまり適切でない	11
適切でない	5



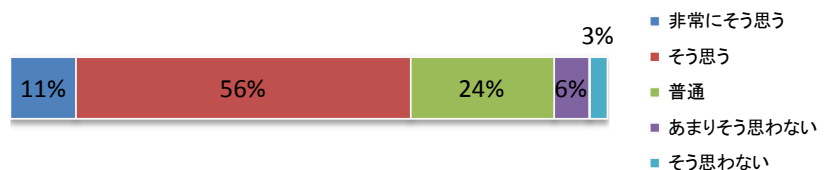
(18) 教育地域科学部のカリキュラムに沿って真摯に学習を続けていくことにより、あなたは卒業時までには学部の教育目標に沿った以下の能力等を修得できると思いますか。

【学校教育課程】

1) 生涯にわたって学び続ける能力

・非常にそう思う ・そう思う ・普通 ・あまりそう思わない ・そう思わない

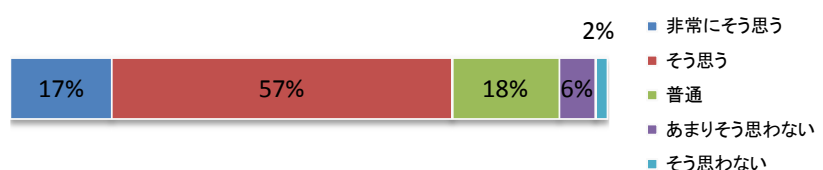
非常にそう思う	24
そう思う	122
普通	52
あまりそう思わない	14
そう思わない	6



2) 協働的・問題解決的学習の指導・評価力

・非常にそう思う ・そう思う ・普通 ・あまりそう思わない ・そう思わない

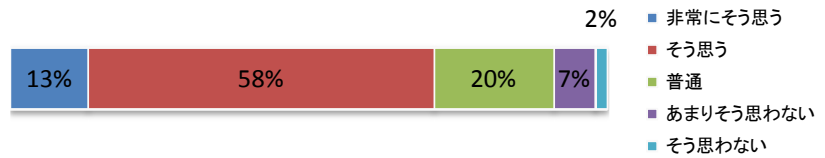
非常にそう思う	37
そう思う	122
普通	38
あまりそう思わない	13
そう思わない	5



3) 教科の重要概念と探求方法に関する理解力

・非常にそう思う ・そう思う ・普通 ・あまりそう思わない ・そう思わない

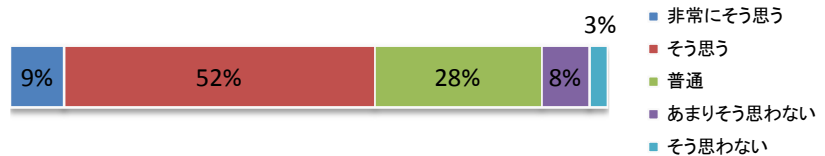
非常にそう思う	28
そう思う	123
普通	43
あまりそう思わない	15
そう思わない	4



4) 民主的集団活動の運営・道徳的指導力

・非常にそう思う ・そう思う ・普通 ・あまりそう思わない ・そう思わない

非常にそう思う	19
そう思う	111
普通	60
あまりそう思わない	18
そう思わない	6



5) 子どもの成長・発達を支配する能力

・非常にそう思う ・そう思う ・普通 ・あまりそう思わない ・そう思わない

非常にそう思う	35
そう思う	122
普通	44
あまりそう思わない	6
そう思わない	5



【地域科学課程】

1) 地域の特性と課題に対する関心・意欲

・非常にそう思う ・そう思う ・普通 ・あまりそう思わない ・そう思わない

非常にそう思う	29
そう思う	101
普通	26
あまりそう思わない	9
そう思わない	3



2) 実践的課題解決力

・非常にそう思う ・そう思う ・普通 ・あまりそう思わない ・そう思わない

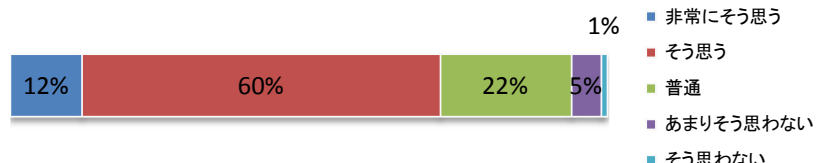
非常にそう思う	35
そう思う	89
普通	34
あまりそう思わない	7
そう思わない	2



3) 多角的・学祭的基礎知識と個別専門知識

・非常にそう思う ・そう思う ・普通 ・あまりそう思わない ・そう思わない

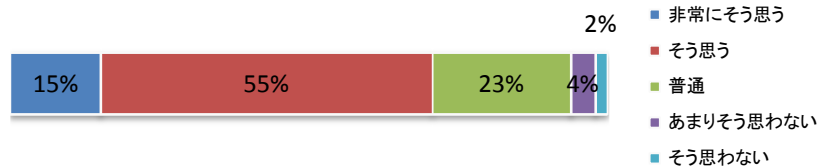
非常にそう思う	20
そう思う	100
普通	36
あまりそう思わない	8
そう思わない	2



4)時代の状況に即した柔軟な思考力と課題適応力

・非常にそう思う ・そう思う ・普通 ・あまりそう思わない ・そう思わない

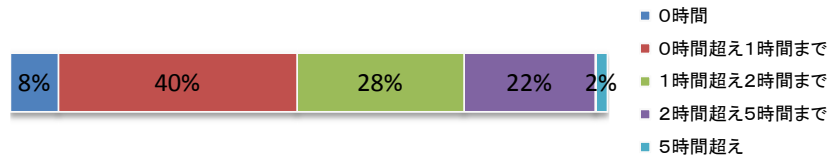
非常にそう思う	25
そう思う	91
普通	38
あまりそう思わない	6
そう思わない	4



(19)授業以外の学修時間について、普段の講義の予習・復習、さらに自主的な学修(必ずしも講義とは直接関連しない自発的な課題への取り組みなども含めてください)に1日当たりどのくらいの時間数を使っているか。休日も含め平均した1日の学修時間を具体的に時間単位で示す。

・0時間 ・0時間を超え1時間まで ・1時間を超え2時間まで ・2時間を超え5時間まで ・5時間を超え

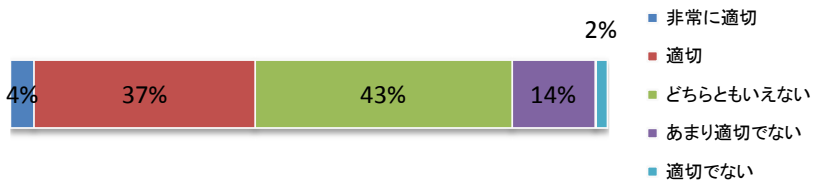
0時間	13
0時間を超え1時間まで	69
1時間を超え2時間まで	47
2時間を超え5時間まで	38
5時間を超え	3



(20)カリキュラム全体の学修内容を消化・理解するために授業以外の学修時間を十分に使ったか。

・非常に十分 ・十分 ・どちらともいえない ・十分ではない ・全く十分ではない

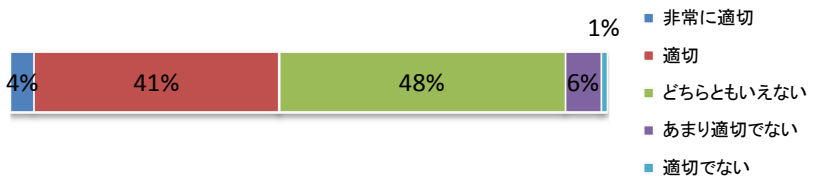
非常に適切	14
適切	117
どちらともいえない	135
あまり適切でない	43
適切でない	6



(21)カリキュラム全体の学修内容を十分に消化できたか。

・非常に十分 ・十分 ・どちらともいえない ・十分ではない ・全く十分ではない

非常に適切	14
適切	128
どちらともいえない	151
あまり適切でない	18
適切でない	4



(11) カリキュラム全般に関する意見・要望の自由記述。

- ・取りたい授業が被っていることがよくあり、次の年もまた被っていたりするときは取り方が分からず困る。
- ・教育学の科目(レポートや実践的活動など)が多すぎて、専門科目に費やす学習時間が削られることに不満を抱いている。また、教育地域科学部に所属していると語学センターの先生方による授業を取ることがほとんどできないのが残念。
- ・一般教養の授業がいい加減すぎる。1年次に詰めこみすぎている
- ・学習過程研究(探求ネットワークの授業)と専門の授業を被せるのはやめてほしい。どちらもしっかりやりたい人にとっては難しい選択になるし、逆に探求ネットワークをしている人は絶対に授業も取るべき。探求ネットワークの活動だけをやって授業に出ないのはおかしい。
- ・実技の授業をどうか1単位から2単位に増やしてほしい(美術科の学生の実態を知ってください)。
- ・もう少し卒業要件や必要な単位、集中履修のやり方などを一年生の初めの時点でもっとちゃんと教えてほしかった。
- ・5限界まで授業が詰まり、バイトも部活もなかなかできないです
- ・もっと色々な分野を開講してほしい。

(16) 問15で4または5と答えた方は、その具体的な理由の記述。さらに、それを踏まえて改善点等の記述。

- ・教職科目の必須授業と、専門科目の必須授業の時間割が重なっていて、1年卒業が延びることになりました。ショックです。重ならないようにしてほしいです。
- ・教科教育(指導法)および教科専門の授業は(開講科目数は少ないけれども)、先生方が高い専門性を修養できるようなカリキュラムを工夫してくださっている。対して、教職科目(特に教育学)は概して同じような内容ばかりであり、かつ教員として本来的に必要なとされる専門性を必要十分に養成できる授業であるとは思えない。
- ・助言・指導がその分野に偏ってしまうから。たとえば、専門では専門の授業を多く取ることを進められ、教職では教職の授業もしっかり受けなければならない。改善点として、理解するのは難しいかもしれないけれど、先生方にそれぞれ授業や課外活動がある現状を知っていただくと嬉しい。
- ・お互い必要な単位の授業なのに開講している時間が重なっていて先生に話を学生がいちいちつけにいくのは大変なので教務課のほうで注意を呼びかけてほしい

(22) 問21で4または5と答えた方は、なぜ十分使えなかったのか、なぜ十分に消化できなかったのか、具体的な記述。

- ・履修しなければならない科目が多すぎるため。
- ・予習・復習など自分自身でマネジメントしないといけない学習をおろそかにしてしまったから。
- ・授業課題が重すぎて、授業外の時間を使用しても消化できなかった
- ・そこまでの勉強意欲がない
- ・学習活動の分の時間を作れない
- ・一年生で履修しなければならない(とは限らないが、そういう流れになっているので履修している)科目が多すぎる。
- ・バイトなどの忙しい時が多かったから。
- ・興味が無いから
- ・具体的にどういった勉強のしかたをすればよいのか分からなかったため。

医学部の分析と考察

三上 俊介 (医学部)

アンケートの回収率は医学科 86%, 看護学科 69%であり、回答を寄せてくれた学生のうちでは肯定的回答の割合が総じて高い。前回(H25)は3年次生だけが対象であった医学科では今回対象が1, 3, 4, 6年次生に拡げられ、その上回収率も24ポイントもの大幅上昇となつて、アンケート結果の信頼性も飛躍的に高まった。

【各項目に関する分析と考察】

(1), (2) 学部・学科の教育理念・目標の理解

両学科とも(1), (2)に対する肯定的回答(理解、だいたい理解)の割合は同じで、医学科は60%台前半、看護学科は80%台前半である。医学科では前回の調査でみられたような(1)と(2)に対する肯定的回答の割合のギャップが今回は解消されている。また医学科では今回の調査で、(学年間での気質の違いもありうるが)学年進行に伴い肯定的回答の割合が漸減する傾向が現れていることがわかった。

(4) シラバスの活用

看護学科では過半の55%がシラバスを活用していると回答しており、ときどきも含めると96%と極めて高く、学生の講義・実習に対する前向きな姿勢が維持されていることがわかる。医学科では学年間でのばらつきはある(最大20ポイント)が、ときどきも含めて63%が活用しており、前回より10ポイントも上昇した。ただ、活用していると回答しているのは63%のうち9%に留まっているが、「活用」と「ときどき活用」の間の線引きは学生個人の主観にもよる。今後は、学生ポータルシステムに組み込まれた形でシラバスの活用をより進めていくという方向性なのであろう。

(3), (5), (6) カリキュラム, 卒業要件および必修・選択必修・選択の区分に関する理解

看護学科はいずれに関しても理解割合がだいたいも含めると97%と前回同様極めて高水準である。医学科ではこの3つの質問項目の中では(5)の卒業要件の理解割合がだいたいも含めて68%と最も低かった。学年進行に伴い61%から80%に上昇しているが、均すと前回の3年次生の調査結果である71%とほぼ同じになった。専門教育課程において選択の余地がほとんどないことも影響していると推察する。

(7) 再試験・追試験願に関する条件や手続き

前回の調査では欠席届も質問文に含まれていたが、今回は除かれた。理解・だいたい理解と回答した割合は看護学科では12ポイント低下(78%↘66%)、医学科は62%で変わらなかった。再試験と追試験の違いなどについて、どの程度学生に理解されているのだろうか。

(8) オフィスアワーの活用

前回の調査と比較すると、肯定的回答(活用、ときどき活用)の割合が、医学科では横ばい(23% → 24%)、看護学科では11ポイント上昇(38% ↗ 49%)した。看護学科での日々の教育実践により大きく改善されているといえるのではないか。今回からオフィスアワーの認知を調べる質問は共通質問項目からは削除されているが、それでも「オフィスアワーを活用したいと思ったが、できなかった」という層がどれくらいいたのかは(8)の回答からだけではわからない。学部別の質問項目あるいはアンケートの自由記述欄などを利用して学生の声をもっときめ細かく掬い上げることができたらよいと思う。

(9) 卒業後の将来展望・目的意識

アンケート回答時点で、持っていない(あまり持っていないを含む)と回答した割合は看護学科では2ポイント減少して8%、医学科では19%である。医学科では前回(H25)が3年次生だけの回答であったので比較は意味がないが、学年間でのばらつきは最大17ポイントあり、日々の学修に追われているのか4年次生が最大で26%横ばい(25%→26%)であった。19%という数値は、カリキュラムポリシーの理解を尋ねる質問項目(3)で理解していない(あまり理解していないも含めて)と回答した層22%と強い関連があるのではないかと推測する。

(10) カリキュラムの将来設計への有用性の認識

看護学科は肯定的回答が前回よりさらに4ポイント上昇し97%にまでなった。医学科は74%で(9)と較べて学年間のばらつきも少ない。学生が視野狭窄に陥ることがないように願うとともに、(10)への肯定的な認識が自主学修をより促すことになるので、今後も継続して調査してほしい項目である。

【医学部医学科】

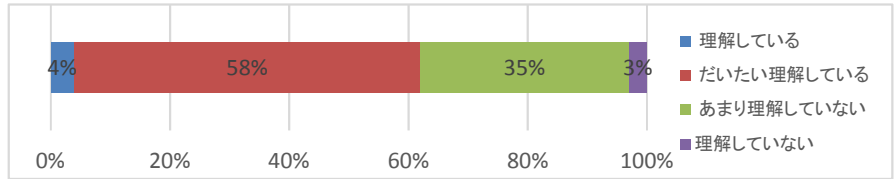
アンケート実施期間:2014/12~2015/2

対象人数: 463人 回答人数:400人 回答率: 86.4%

(1) 学部の理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

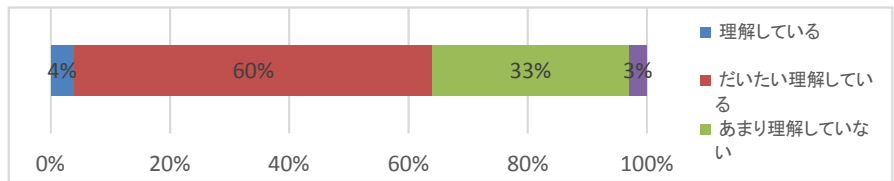
理解している	15
だいたい理解している	225
あまり理解していない	136
理解していない	14



(2) 課程の教育理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

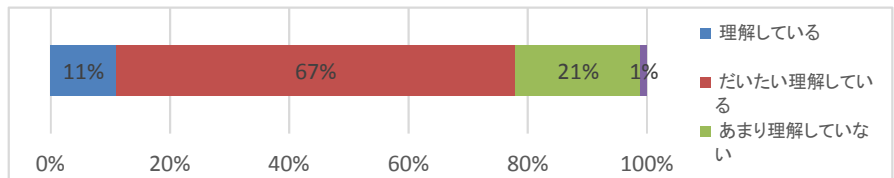
理解している	16
だいたい理解している	233
あまり理解していない	131
理解していない	12



(3) 4年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

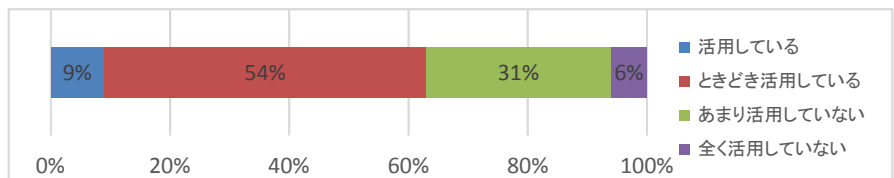
理解している	41
だいたい理解している	261
あまり理解していない	84
理解していない	5



(4) シラバスを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

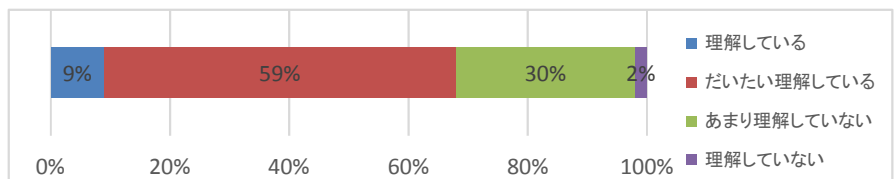
活用している	33
ときどき活用している	230
あまり活用していない	118
全く活用していない	7



(5) 卒業要件を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

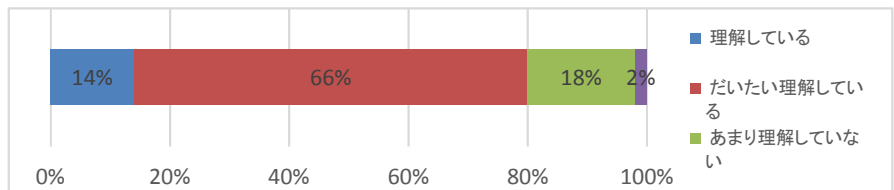
理解している	36
だいたい理解している	230
あまり理解していない	118
理解していない	7



(6) 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

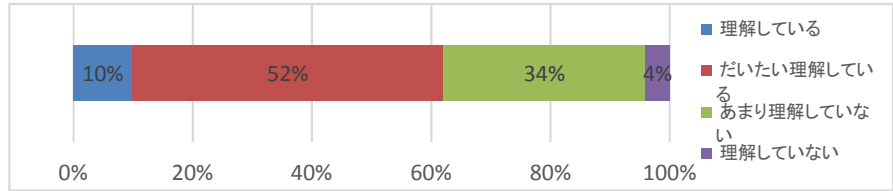
理解している	56
だいたい理解している	259
あまり理解していない	71
理解していない	6



(7) 再試験・追試験を願ひ出る際の条件や手続きを理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

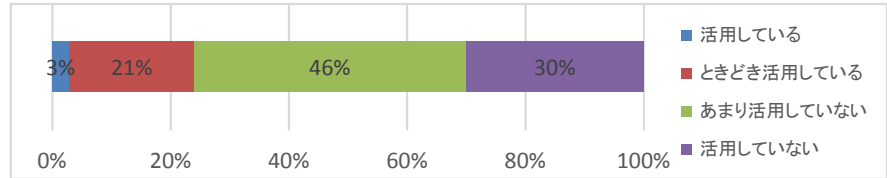
理解している	37
だいたい理解している	201
あまり理解していない	129
理解していない	17



(8) オフィスアワーを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

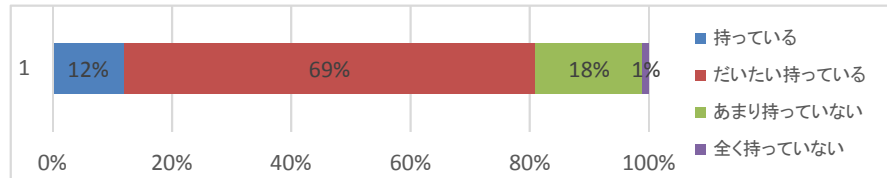
活用している	11
ときどき活用している	80
あまり活用していない	181
活用していない	118



(9) 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

・持っている ・だいたい持っている ・あまり持っていない ・全く持っていない

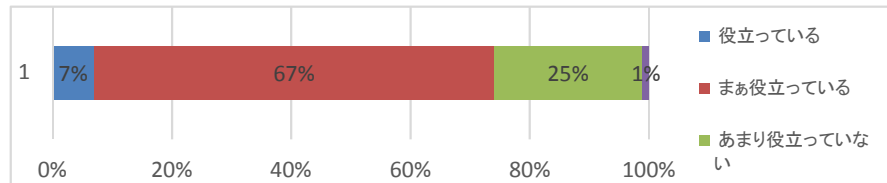
持っている	48
だいたい持っている	272
あまり持っていない	69
全く持っていない	3



(10) 課程のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

・役立っている ・まあ役立っている ・あまり役立っていない ・全く役立っていない

役立っている	28
まあ役立っている	262
あまり役立っていない	97
全く役立っていない	5



【看護学科】

アンケート実施期間: 2014/09/17(水)~2014/10/20(月)

対象人数: 249人 回答人数: 172人 回答率: 69.1%

(1) 学部の理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	31
だいたい理解している	110
あまり理解していない	29
理解していない	2



(2) 課程の教育理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

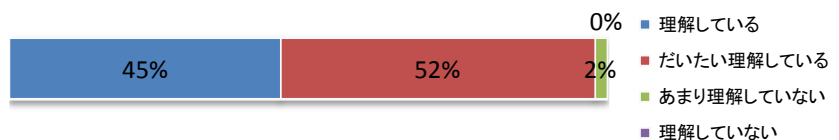
理解している	32
だいたい理解している	111
あまり理解していない	28
理解していない	1



(3) 4年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

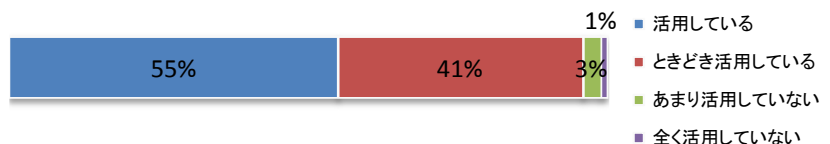
理解している	78
だいたい理解している	90
あまり理解していない	4
理解していない	0



(4) シラバスを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

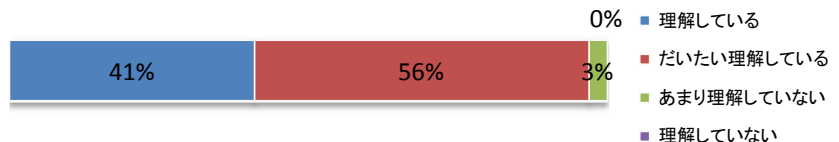
活用している	95
ときどき活用している	71
あまり活用していない	5
全く活用していない	1



(5) 卒業要件を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

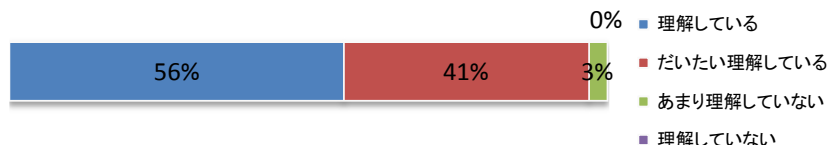
理解している	70
だいたい理解している	97
あまり理解していない	5
理解していない	0



(6) 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	97
だいたい理解している	70
あまり理解していない	5
理解していない	0



(7) 再試験・追試験を願ひ出る際の条件や手続きを理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

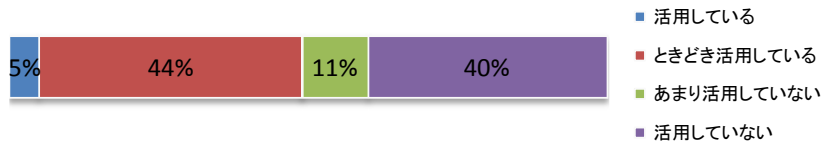
理解している	42
だいたい理解している	72
あまり理解していない	52
理解していない	6



(8) オフィスアワーを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

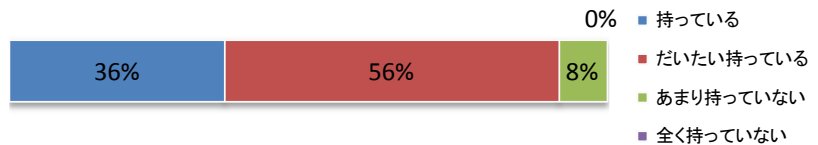
活用している	9
ときどき活用している	75
あまり活用していない	19
活用していない	69



(9) 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

・持っている ・だいたい持っている ・あまり持っていない ・全く持っていない

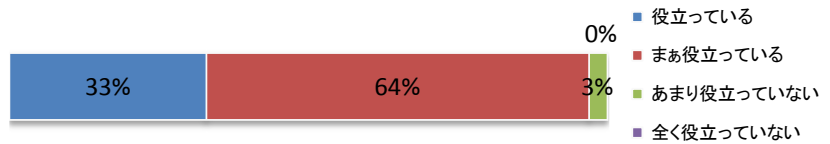
持っている	62
だいたい持っている	96
あまり持っていない	14
全く持っていない	0



(10) 課程のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

・役立っている ・まあ役立っている ・あまり役立っていない ・全く役立っていない

役立っている	56
まあ役立っている	110
あまり役立っていない	6
全く役立っていない	0



(11) カリキュラム全般に関する意見・要望の自由記述。

意見なし

工学部の分析と考察

山田 徳史 (工学研究科)

アンケート結果の整理・分析・解説が役目であるが、僭越であることを承知の上、いくつかの項目に対しては、改善に向けた提案も行った（あくまでも個人的な提案である）。

【アンケート回答率】

全学では 43.7% であるのに対し、工学部では 32.9% であり、明らかに回答率が低い。回答率を上げる工夫が必要である。回答しなければ履修登録できないようにするのがよからう。

【全学共通項目】

(1)～(11)は全学共通項目である。これに関しては、工学部の結果と全学の結果はほぼ同様であるが、三点で目立った違いがある。(8)の「オフィスアワーの活用」については、「活用していない」の割合が、工学部では全学よりも 10% 多い。また、(9)の「卒業後の具体的な将来展望・目的意識」について、「あまり持っていない」と「持っていない」を合わせた割合が、工学部では全学よりも 12% 多い。さらに、(10)の「学科のカリキュラムが自身の将来設計に役立っているか」については、「あまり役立っていない」と「役立っていない」を合わせた割合が、工学部では全学よりも 5% 多い。

オフィスアワーは形骸化している面があるように思われる（自身の反省も含め）。学生にとってより利用しやすい形態を工夫する必要があるのではないだろうか（その一案は昨年度述べたのでここでは繰り返さない）。将来展望・目的意識やカリキュラムの将来設計への役立ち方に関するネガティブな回答の多さは、将来の進路が絞られる他学部と工学部との性格の違いを反映しているものと捉えることはできるであろうが、対策は必要である。その中では、正規の教育課程だけでなくその「外」にある諸活動（いわゆる Hidden Curriculum）も含めて学生の育成をいかに行うか、という視点が今後重要になるのではないだろうか（大学という場が提供するあらゆる機会がそれが正規の教育課程の「内」か「外」かに関わらず学生の成長に関与するのだから）。また、学期ごとの成績だけでなく、学生が自分の成長をより多角的かつ連続的に把握できる仕組みも必要ではなからうか。

【工学部固有項目】

(12)～(32)は工学部に固有の項目であり（ただし他学部でもほぼ同様な項目を設けている）、そのうち(12)～(19)は昨年度も設けていた項目、(20)以降は今回新しく加わった項目である。これらのうち、肯定的回答が 90% 以上の項目を「秀」、80%～90%の項目を「優」、75%～80%の項目を「良+」、70%～75%の項目を「良-」、60%～70%の項目を「可」、60%以下

の項目を「不可」とすると以下のようなになる。

「秀」：(16) 学科の授業内容の妥当性、(18) 成績評価方法の妥当性

「優」：(12) 卒研着手要件の理解、(24) ①基礎の修得、(24) ②専門の修得

「良+」：(20) 大学教育への円滑な移行、(23) 教育目標とカリキュラムの整合性、(26) 履修による興味や学習意欲の増大、(27) 教員による履修指導・助言

「良-」：(14) 学科の学習・教育目標の理解、(24) ③創造力・自己学習力・問題解決能力の修得、(24) ⑤倫理観・社会的責任感の修得、(24) ⑥幅広い視野の修得、(25) 科目の種類や開講時期の妥当性

「可」：(15) 学科開講科目と学科の学習・教育目標との対応の理解、(21) 合宿研修等による学習意欲増大、(31) 学習内容の十分な理解

「不可」：(13) 各学期で履修できる単位数に上限があることへの理解、(24) ④コミュニケーション能力の修得、(30) 十分な学修時間

これらの結果から、「学科の授業の内容や成績評価方法は適切であり、まじめに取り組めば基礎的な知識・教養および専門的知識・能力を修得できる」と考える一方で、学修時間の長さや学習内容の理解度の不十分さを“素直に”認める学生の姿が浮かんでくる。また、学士力の中の「汎用的技能」や「態度・志向性」、あるいは社会人基礎力の中の「考え抜く力」に相当する項目については、「工学部のカリキュラムを通してそれらを修得することは、基礎的な知識・教養および専門的知識・能力の修得に比べると難しい」と考えている学生が少なくないことも読み取れる。アンケート結果から見えてきた「弱点」（「不可」～「良-」に分類された各項目）はいずれも「手ごわい相手」ではあるが、イマジニア養成を掲げる工学部としては放っておけない項目ばかりである。数多くの教養科目、専門科目、実践的科目の存在によって「学びの種類・機会はすでに確保されている」と考えれば、今後は「何をどのように履修していけばどのような能力が身につくのか」をよりわかりやすく学生に提示することがますます重要になるように思える。工学部では、学年進行にともなってコースに分かれる制度が28年度から導入されるため、多岐にわたる専門科目を、〇〇修得のための科目群、△△修得のための科目群というように分類して提示してはどうだろうか（テーブルの上に並んだ多くの料理を、筋力をつけるための料理、脂性体質を改善するための料理、などとグループ分けして提示するイメージ）。「汎用的技能」、「態度・志向性」、「考え抜く力」などに関しては、教養科目、専門科目、実践的科目の全てを通したグループ分けが必要となろう。もちろんグループ分けするだけでなく、同じグループ内の科目間連携をすすめること（例えば、複数の科目で連携して目標達成を図る）も必要だろう。なお、科目のグループ分けは、カリキュラムマップやカリキュラムツリーの作成よりも細かいレベルの作業であり、グループ分けをスムーズに行うためにもまずマップやツリーを作成しておくことが必要である。

「あることを修得するためには教育課程をどのように活用すればよいのか」をより明確に提示し、履修指導（場合によっては履修「誘導」）を充実させ、さらにLMSなどを活

用して学生に目標達成までの過程を多角的かつ連続的に把握させる。これらを通して、学生に高いモチベーションと目的意識を持たせ、主体的な学びを喚起していくことが、今回のアンケートから読み取れる「弱点」の改善につながるのではなかろうか。

授業外学修時間に関する設問(29)について

得られた回答から1週間の授業外学修時間を見積もると、9.3時間程度となる。「欧米水準」と言われる週14時間にはまだ遠く、一層の増大が必要である。能動的学習の割合を高め、学生が目的意識とモチベーションを高く持って自主的に学修活動を行うよう、仕向けていかなければならない。

ところで、9.3時間という結果は、学生生活実態調査2013で得られた「平成25年度の工学部生の1週間の授業外学修時間は5.8時間」という結果のほぼ倍である。1年間の間に本当にこれほど増大したのだろうか？実は、本アンケートと学生生活実態調査とは、学修時間として設問に記された選択肢が異なるため、両者の結果を直接比較することは難しい。とはいえ、余りにも違いの大きな結果に戸惑いを感じる。授業外学修時間を把握することは今後ますます重要になるため、複数の調査で設問の仕方がある程度揃えるなどの工夫が必要ではないだろうか。なお、同様な質問が複数の調査で繰り返されることの「無駄」の見直しは必要であろうが、複数の独立した調査で同様な結果が得られることが結果の信頼性を高める、とも考えられる。複数の調査の役割分担のあり方も含め、信頼性の高い結果を効率的に収集する方法をどこかが責任を持って検討することが必要ではないだろうか。

最後に、本項目に対する回答数が456と、他項目に対する回答数の約56%に留まっていることは残念である。「休日も含めて平均した1日当たりの授業外学修時間」の計算が面倒だったことが原因ではなかろうか。アンケート時に初めて学修時間を意識させるのではなく、平日頃から学修時間を把握させるような工夫が必要に思える。例えば、課題には、それを仕上げるまでにかかった時間を書かせて提出させてはどうだろうか。また、週14時間の授業外学修時間を達成するためには、(本来それは学生が自主的に勉強することによって達成すべきものだが)それだけの時間を要するように課題を出す、というのが一番確実な方法である。例えば、各学科・各学年ごとに、1週間に課される課題をリストアップし、各課題に想定される取組時間(とりあえず教員が考えた時間)の和が14時間を超えるように課題の出し方を学科単位でマネジメントしてはどうだろうか。「課題の出し方マネジメント」により、「重い課題」がある時期に集中して質の高い学びを阻害する、といった事態も避けられるのではなかろうか(「課題の出し方マネジメント」の考えは、これまでもいろいろな場所で述べてきたが、常に「秒殺」される。そんなに荒唐無稽か?)。

【自由記述欄】

全学共通項目と工学固有項目のうち、自由記述で回答する項目についてここでまとめる。

(11)カリキュラム全般に関する意見・要望

11 件の回答があった。3 件が「授業が難しくついていけない」、「もっとわかりやすく」という趣旨の回答であった。極端にわかりにくい・難しい授業があれば授業アンケートで把握できるであろうから、授業アンケートを授業改善のために活用することを（難しい・わかりにくいという回答の多寡にかかわらず）より積極的に考えてはどうだろうか。教職科目の履修の大変さを訴える趣旨の回答が 2 件あったが、意地悪をして教職科目の履修をできにくくしているわけでは決してない。工学部は技術者・研究者の養成を第一に掲げている。教員免許の取得というプラスアルファを目指す学生には、高学年で教職科目に取り組める余裕を確保できるよう初年時から計画的に履修をすすめてほしい。そのことがもし十分に学生に伝わっていないのであれば、改めて周知を徹底することが必要であろう。編入生からは、共通教育の抽選を最後に回されているとの回答が 1 件あったが、そうした事実は確認されず、誤解に基づく回答だと思われる。万一、そうした誤解が学生の間を広まっているのであれば、誤解が解けるよう説明が必要であろう。

(17)「学科の学習・教育目標と照らして、授業の内容が適切だったか」に対して「あまり適切でなかった」あるいは「適切でなかった」と答えた場合のその理由

11 件の回答があったが、設問の意図に沿った回答は 3~4 件であった。それらは、授業内容の薄さ、過程の重要性を説きながら結局は結果が重視されることへの疑問、授業（の内容？）が教える側の自己満足的なものになっている、等の内容であった。

(19)「成績の評価方法は適切であったか」に対して「あまり適切でなかった」あるいは「適切でなかった」と答えた場合のその理由

19 件の回答があった。そのうちのほぼ半数が、評価方法・基準についての疑問・不満であった（評価の詳細がわからない、試験結果の返却がなく評価結果の自己検証ができない、評価方法が途中で変わった、試験が難しすぎる、等の趣旨）。「厳密な成績評価」ということが言われて久しいが、「明確な成績評価基準が定められており学生がそれを承知していること」は厳密な成績評価の大前提である。工学部では JABEE 対応を進めてきたため、その大前提は守られているはずであるが、不十分な点があれば改善を図っていかなければならない。また、試験問題の返却はできる限り行ってはどうだろうか。評価結果に対する疑問を挙げた回答が 5 件あった（試験を受けたのに不可ではなく不受になっていた、試験でほとんど間違っていたのに秀になっていた、不可になった理由がわからない、など）。シラバスの web ページや各学科で出している冊子体のシラバスに、評価結果に疑問がある場合には担当教員や教務に連絡を取るよう明記し、周知をはかったらどうだろうか。

(22)「入学時オリエンテーション, 新入生合宿研修, 大学教育入門セミナーなどの初年次教育を受けたことにより, 学修意欲は増したか」に対して「どちらかと言えば, いいえ」または「いいえ」と答えた場合のその理由, および改善提案

10 件の回答があったが, 学修意欲の増大につながるような内容の提案はなかった。友人作りはサークルなどで行う, 知ってる内容が繰り返されて意欲が失せた, 等の回答も踏まえると, これらのイベントや授業の内容の向上に学生の希望をより反映させていくことを考えてはどうだろうか。

(28)「教員による履修指導・助言は適切か」に対して「どちらかと言えば, いいえ」または「いいえ」と答えた場合のその理由, および改善提案。

6 件の回答のうち半分程度が「助言はなかった」という趣旨の回答であった。教員によって助言指導に温度差はあるだろうが, そもそも助言体制は学科ごとに異なる。「助言はなかった」と答えた学生の学科が, 学科からの指導と助言教員からの指導のどちらに重きをおいているかまで含めて判断しないと, 何とも言えない。

(32)履修した科目全般について「学修内容を消化・理解するために使った学修時間は充分か」および「学修内容を十分に消化・理解できたか」に対して「どちらかと言えば, いいえ」または「いいえ」と答えた場合, その理由。

学生の最大の関心事である学業への取組とその成果について振り返らせる質問であったためか, 自由記述のなかで最大となる 40 件の回答があった。内訳は以下の通り。

- ・取り組み方（やる気、勉強方法等）が不十分だった：13 件（32.5%）
- ・内容が難しく理解できなかった：9 件（22.5%）
- ・アルバイト、サークル、遊びに時間を費やしすぎた：7 件（17.5%）
- ・身に付き方に不安がある（実際に活用できるか等）：4 件（10%）
- ・科目を多くとりすぎた：3 件（7.5%）
- ・その他（興味がない、授業中起きていられない、等）：4 件（10%）

このように、学修時間不足や理解度不足の原因は「自分の方にある」と考えている回答が 6 割弱であった。その原因としては、勉強の仕方（一夜漬けなど）、アルバイト、サークル、遊び、と定番のものが並ぶ。生活のためのアルバイトについてはいかんともしがたい面があるが、やはり学生の本分を自覚しモチベーションをもって学業に励むようより一層仕向けるしかあるまい。そのためには【工学部固有項目】の最後に述べたことが考えられるのではないだろうか。なお、科目を多くとりすぎて消化不良になることを防ぐために、工学部ではすでに CAP 制を導入している。28 年度から新カリキュラムに移行するにあわせ、CAP 制の内容は改めて検討することになるであろうが、CAP 制を設けるだけでなく、学科単位での履修「誘導」も適切に行って、学生の学修が明確な目的意識のもと長期的な視点に立って計画的に進むよう、これまで以上にアシストする必要があるだろう。

【工学部】

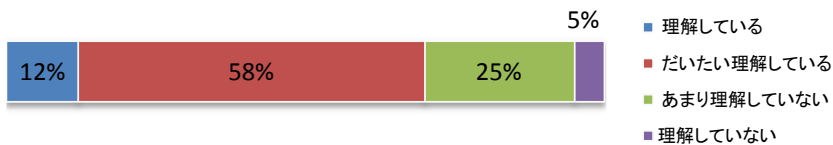
アンケート実施期間: 2014/09/17(水)~2013/10/20(月)

対象人数: 2488人 回答人数: 819人 回答率: 32.9%

(1) 学部の理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

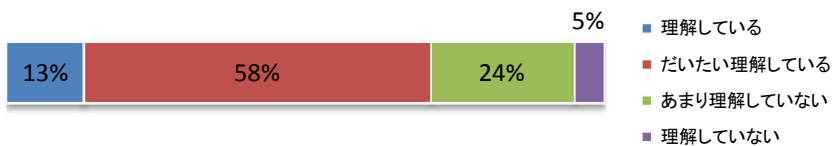
理解している	102
だいたい理解している	476
あまり理解していない	203
理解していない	38



(2) 学科の教育理念や目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

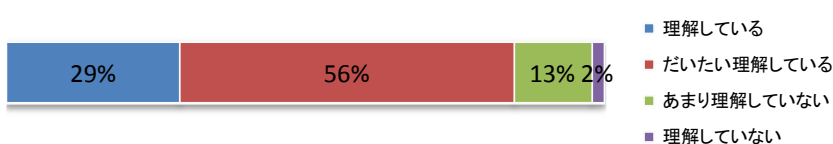
理解している	107
だいたい理解している	474
あまり理解していない	198
理解していない	40



(3) 4年間を通じ各学年でどのような科目を履修しなければならないか理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

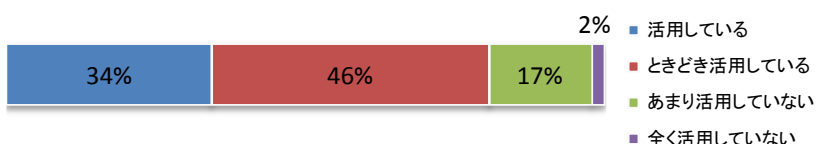
理解している	236
だいたい理解している	460
あまり理解していない	110
理解していない	13



(4) シラバスを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

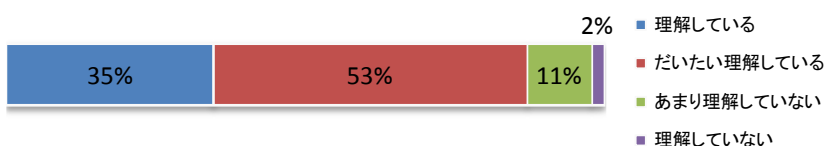
活用している	281
ときどき活用している	379
あまり活用していない	143
全く活用していない	16



(5) 卒業要件を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

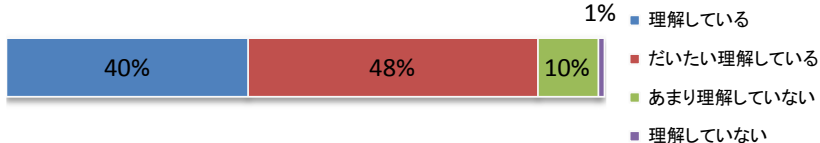
理解している	283
だいたい理解している	431
あまり理解していない	92
理解していない	13



(6) 必修科目、選択必修科目、選択科目の区分を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

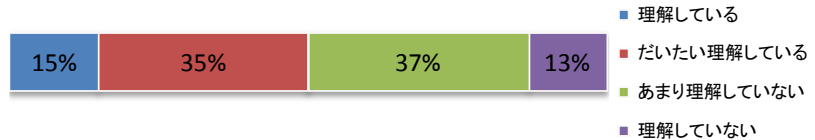
理解している	330
だいたい理解している	396
あまり理解していない	84
理解していない	9



(7) 再試験・追試験を願ひ出る際の条件や手続きを理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

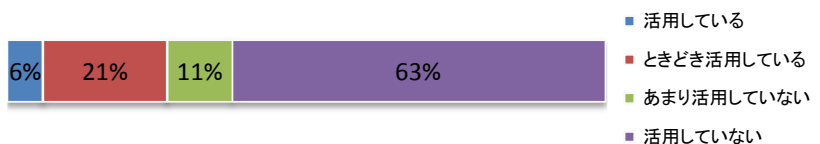
理解している	123
だいたい理解している	284
あまり理解していない	302
理解していない	110



(8) オフィスアワーを活用している。

・活用している ・ときどき活用している ・あまり活用していない ・全く活用していない

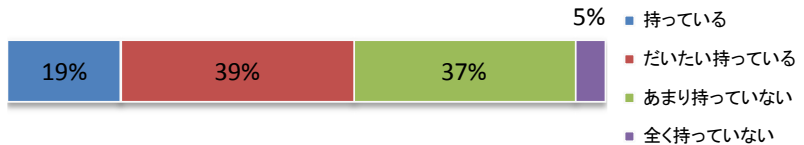
活用している	48
ときどき活用している	168
あまり活用していない	91
活用していない	512



(9) 卒業後の具体的な将来展望・目的意識を持っている。

・持っている ・だいたい持っている ・あまり持っていない ・全く持っていない

持っている	153
だいたい持っている	318
あまり持っていない	303
全く持っていない	44



(10) 学科のカリキュラムが自身の将来設計に役立っている。

・役立っている ・まあ役立っている ・あまり役立っていない ・全く役立っていない

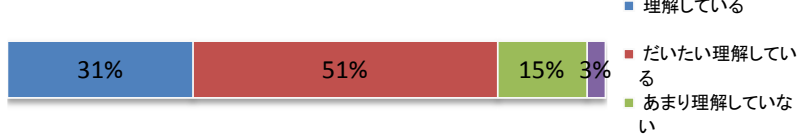
役立っている	118
まあ役立っている	466
あまり役立っていない	207
全く役立っていない	27



(12) 卒業研究着手条件を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

理解している	256
だいたい理解している	415
あまり理解していない	120
理解していない	27



(13) 各学期において履修できる専門教育科目の単位数に上限があることを知っている。

・知っている ・知らない

知っている	437
知らない	381



(14) 学科の学習・教育目標を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

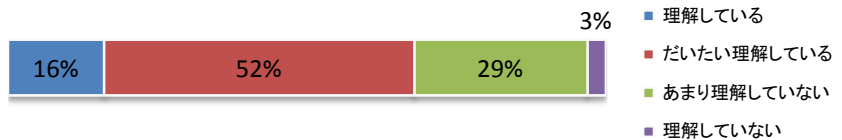
理解している	150
だいたい理解している	451
あまり理解していない	189
理解していない	28



(15) 学科で開講されている科目と学科の学習・教育目標との対応を理解している。

・理解している ・だいたい理解している ・あまり理解していない ・理解していない

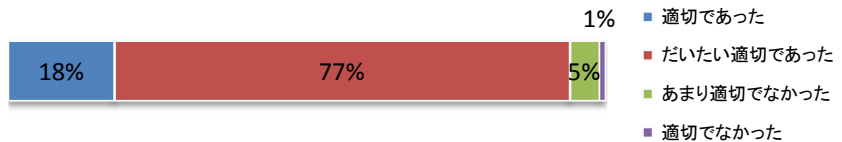
理解している	132
だいたい理解している	423
あまり理解していない	238
理解していない	25



(16) 学科の学習・教育目標と照らして、授業の内容は適切だったか。

・適切であった ・だいたい適切であった ・あまり適切でなかった ・適切でなかった

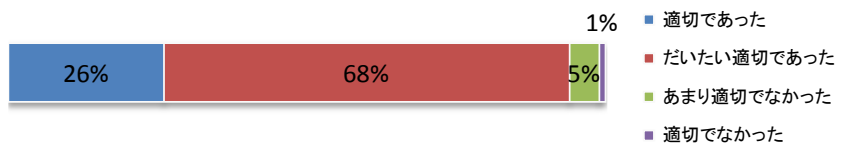
適切であった	146
だいたい適切であった	626
あまり適切でなかった	37
適切でなかった	9



(18) 成績の評価方法は適切であったか。

・適切であった ・だいたい適切であった ・あまり適切でなかった ・適切でなかった

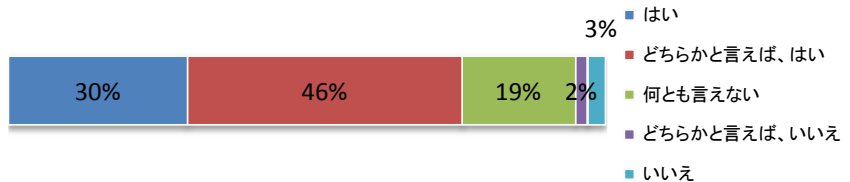
適切であった	211
だいたい適切であった	557
あまり適切でなかった	42
適切でなかった	8



(20) 入学時オリエンテーション、新入生合宿研修、大学教育入門セミナーなどの初年次教育を受けたことにより、大学教育に円滑に移行できたか。

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

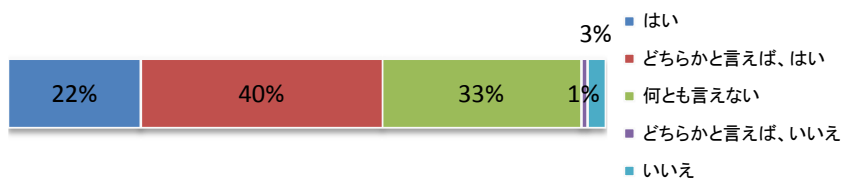
はい	243
どちらかと言えば、はい	373
何とも言えない	155
どちらかと言えば、いいえ	19
いいえ	28



(21) 入学時オリエンテーション、新入生合宿研修、大学教育入門セミナーなどの初年次教育を受けたことにより、学修意欲は増したか。

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

はい	184
どちらかと言えば、はい	326
何とも言えない	268
どちらかと言えば、いいえ	12
いいえ	28

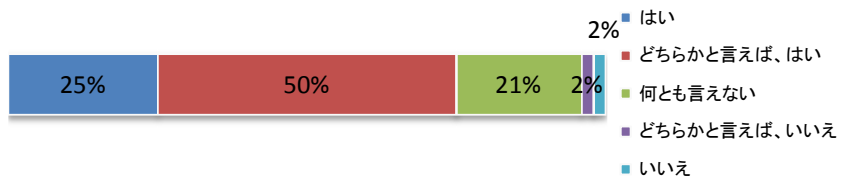


(23) 工学部では、D・P(ディプロマポリシー)において、以下のような高度専門人材を育成することを謳っています。

- ・基礎的な知識・教養、および専門的知識・能力を有している。
- ・創造力、自己学習力、問題解決能力、およびコミュニケーション能力を有している。
- ・高度専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、幅広い視野をもって社会の発展に貢献できる。

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

はい	208
どちらかと言えば、はい	412
何とも言えない	171
どちらかと言えば、いいえ	14
いいえ	13

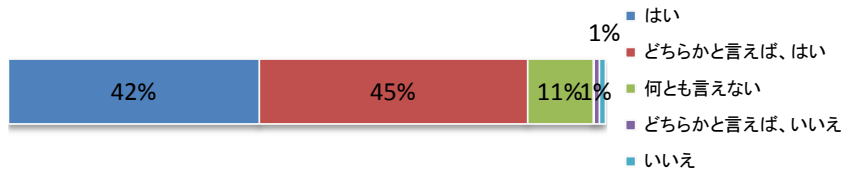


(24) 工学部のカリキュラムに沿って真摯に学習を続けていくことにより、あなたは卒業時までには次の①～③の能力等を修得できたか。

①基礎的な知識・教養

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

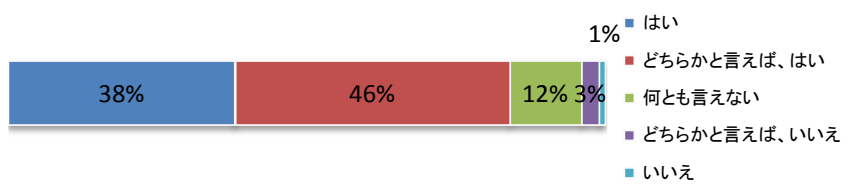
はい	347
どちらかと言えば、はい	366
何とも言えない	86
どちらかと言えば、いいえ	10
いいえ	9



②専門的知識・能力

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

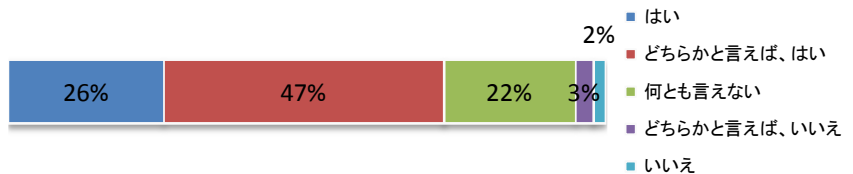
はい	312
どちらかと言えば、はい	375
何とも言えない	98
どちらかと言えば、いいえ	22
いいえ	11



③創造力、自己学習力、問題解決能力

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

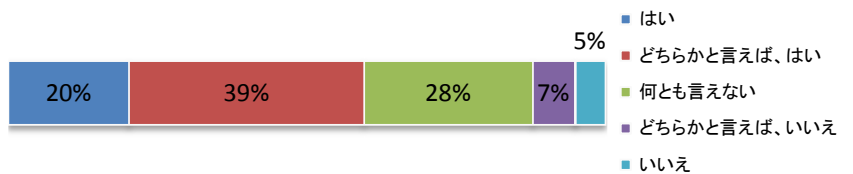
はい	209
どちらかと言えば、はい	386
何とも言えない	178
どちらかと言えば、いいえ	27
いいえ	18



④コミュニケーション能力

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

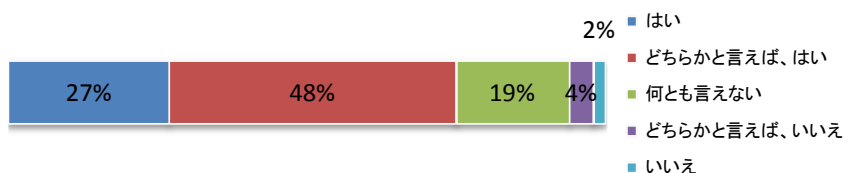
はい	167
どちらかと言えば、はい	321
何とも言えない	233
どちらかと言えば、いいえ	56
いいえ	41



⑤技術者としての倫理観、社会的責任感

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

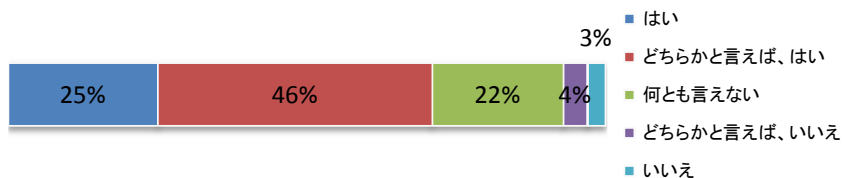
はい	223
どちらかと言えば、はい	390
何とも言えない	152
どちらかと言えば、いいえ	33
いいえ	20



⑥幅広い視野

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

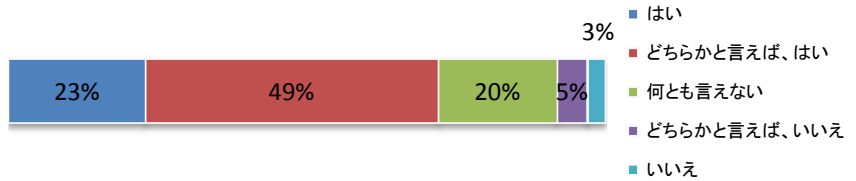
はい	208
どちらかと言えば、はい	378
何とも言えない	178
どちらかと言えば、いいえ	31
いいえ	23



(25)工学部のカリキュラムでは、科目の種類や開講時期などが適切に考慮されていると思うか。

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

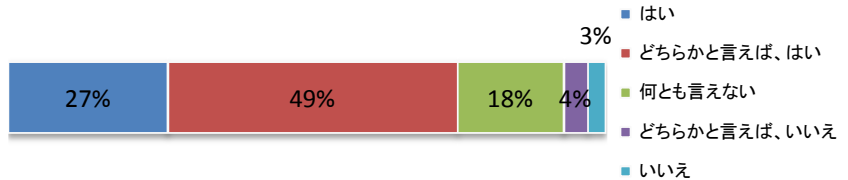
はい	189
どちらかと言えば、はい	403
何とも言えない	160
どちらかと言えば、いいえ	41
いいえ	25



(26)これまでの履修を通して、大学で専門的に学びたいと考えている分野に対する興味や学習意欲が増したか。

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

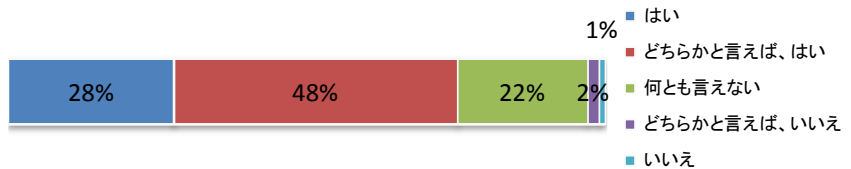
はい	218
どちらかと言えば、はい	398
何とも言えない	144
どちらかと言えば、いいえ	32
いいえ	26



(27)教員による履修指導・助言は適切ですか。

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

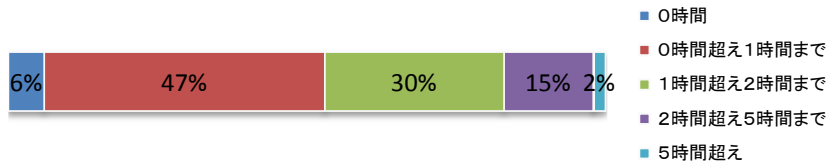
はい	226
どちらかと言えば、はい	390
何とも言えない	176
どちらかと言えば、いいえ	14
いいえ	12



(29)授業以外の学修時間はどれくらいか。授業の予習・復習(授業で出された議題等への取り組みを含む)および自主的な学修(必ずしも授業とは直接関連しない自発的な課題への取り組みなども含む)に使っている時間の合計について。(休日も含めて平均した1日の学修時間を時間単位で)

・0時間 ・0時間を超え1時間まで ・1時間を超え2時間まで ・2時間を超え5時間まで ・5時間を超え

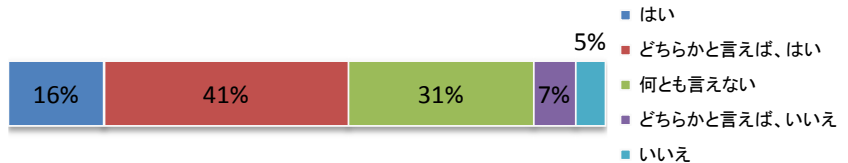
0時間	25
0時間を超え1時間まで	216
1時間を超え2時間まで	135
2時間を超え5時間まで	70
5時間を超え	10



(30)履修した科目全般について、学修内容を消化・理解するために使った学修時間は充分か。

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

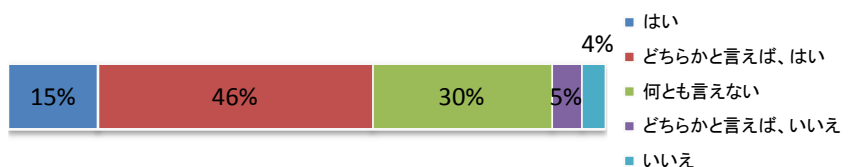
はい	133
どちらかと言えば、はい	332
何とも言えない	255
どちらかと言えば、いいえ	58
いいえ	40



(31)履修した科目全般について、学修内容を十分に消化・理解できたか。

・はい ・どちらかと言えば、はい ・何とも言えない ・どちらかと言えば、いいえ ・いいえ

はい	121
どちらかと言えば、はい	373
何とも言えない	249
どちらかと言えば、いいえ	44
いいえ	31



(11) カリキュラム全般に関する意見・要望の自由記述。

- ・カリキュラムに対し自分の理解度が追いつかず試験で単位取得点数に届かず連続して単位を落とすことが続いています。正直、講義の内容が全く理解できず教授が何を言っているのかわからないとよくあります。
- ・CADに触れる機会が少なすぎる。もう少し授業で活用する機会がほしい
- ・編入学生はコース設定ができなかった。自分が興味のある科目をとることができなかった。一般教養で編入学生は1年しかないのに抽選を最後に回されている。編入生のカリキュラム構成がうまくできていないと感じた。
- ・工業の教員免許習得のために履修する必要のある科目(ほとんどが選択科目)がほとんど三年後期に固まってしまっており、単位が不可であったときにやり直しがきかず大変であるため、1、2年次に履修できるように時期をずらしてほしかった。
- ・必要単位数、研究室、大学院についてもっと説明がほしい。
- ・一般教養にこんなに時間を費やして意味があるのか。やって意味のあることをしたい。
- ・教職のために必要な他学科の授業と、教員免許に必要な選択性の専門教育の授業の時間割をずらして欲しい。
- ・教師陣のスキルアップをもっとしてほしい|「授業中に寝るな」などの声を聞かずに面白い授業で寝ることはぜったいなので
- ・化学系の授業が多く大変満足している。ですが、教授の説明が分かりづらい人が多く一人で勉強するのが難しい。
- ・整った制度だとも思う。
- ・力学や電磁気学という物理の講義も数学と同じように、主に理工学部の先生方から教えていただければ、助かります。

(17) 問16で「あまり適切でなかった」あるいは「適切でなかった」と答えた場合のその理由。

- ・そもそも学科の目標を知らない
- ・熱力学などの教科をやらなければ必要な力が身に付かない
- ・講義の内容が理解できなかった為。
- ・ある授業では、授業で数秒で扱われた範囲が一番配点が高い問題として出題されたから。
- ・学習・教育目標が理解していないのに適切であるかが分かるはずなからう。
- ・教授の授業が自己満足でしかないし、評価の方法がバラバラなのだからやる気も出ない
- ・目標を知らない。
- ・授業が講義の形態を失っていた
- ・理解していないから
- ・講義内容が生徒に対しあまり親切でないと感じるが多かったから。
- ・教授が重要なのは結果ではなくそこに帰着するまでの論理であると言っているが大半の授業では結果を重要視していること。
- ・授業内容が薄いと思う授業がいくつかある。

(19) 問18で「あまり適切でなかった」あるいは「適切でなかった」と答えた場合のその理由。

- ・一部の教員について、実験レポートの受付期間が極端に短い時があったから。
- ・どういったように評価されているのか詳細がわからない
- ・試験まで受けたが勉強不足であった科目が「不可」ではなく「不受」になっていた。
- ・テストだけで決めるのはいかがなものかと。
- ・途中で評価方法が変わった。
- ・学期の途中でなんども評価方法が変わり、混乱したし、研究室に影響がでた。
- ・カンニングをしている人を多く見かけるが、なんの処置もしていない。
- ・入学当初と評価方法が途中で変わったため。
- ・評価方法を知らない。
- ・一般教で、毎回出席もしてレポートも出したのに不受になっていた。しかし、教育系の先生ということもあり、連絡先がわからなくて、何回もその先生のところには行っているが会えていないため、不受のまま後期も一般教を履修することになった。このことから、成績の配布自体をもっと早くして、成績の修正期間が欲しい。
- ・日ごろのレポートの内容が全く加味されていない講義が存在したため
- ・構造設計工学のテストが難しすぎであると思う難易度が高いなら学生に対してチャンスを多く平等に与えるようにすべきであると思うはじめて単位を落としてしまってとても悔しい
- ・思ったのと違った
- ・教授がks
- ・試験の結果が返却されないものが多く、何故その評価になったのか証拠がないため。
- ・テストでほとんど間違っていたのに秀がついた教科があった
- ・採点は教員の自由で第三者視点からの採点がなされていないから
- ・自分では不可になるとは全く思わなかった教科が不可になっていたこと
- ・英語の単位をなぜ落としたのか

(22) 問21で「どちらかと言えば、いいえ」または「いいえ」と答えた場合のその理由。さらに、その理由を踏まえ、初年次教育の改善につながる提案。

- ・交友関係は大学教育セミナーとは無関係の場所で広がり、学習意欲に関してもセミナーとの関連性を自分の中で発見することはできませんでした。
- ・入学の際は学習意欲はあるので増すことはないと思います。合宿では大学での友達作りが主だと思いますが、そのような時間があまりなく結果的にサークルで友達を作るしか方法がありません。そのため、サークルに入らなければ友達があまりできず大学生活は大変面白くなく大学へ行きたいという気分にはならないと思います。
- ・特に印象に残っていないため。
- ・卒業後の志望進路に関係ないので。
- ・知っていること、調べれば分かることをわざわざ説明されて、むしろ、意欲が失せた。時間がもったいない。説明は簡潔に。新生専用窓口を設ける。
- ・受けても、受けなくても関係ない。
- ・学習意欲が増すような内容ではなく、大学生活になれるためのまたは同学科、同学年の知り合いを作るためのものひとつにすぎない。
- ・上記のイベントにより勉強意欲が増したとは思えないから。また、高校のときより勉強していないと感じることはあるからである
- ・学習意欲が増すような内容であったようには思えない。
- ・合宿に行っていない。学習意欲が湧くような話が無かった。

(28) 問27で「どちらかと言えば、いいえ」または「いいえ」と答えた場合のその理由。さらに、その理由を踏まえ、教員による履修指導・助言の改善につながる提案。

- ・単位の振り替え制度や、卒業研究着要件、資格をとるために必要な単位などを、理解していない、もしくは理解しているが学生に指導しない教員がほとんどでした。また、学科内の履修のガイドブックも、間違いやわかりづらい言い回しが目立ちました。
- ・履修指導・助言はされたことがない。
- ・助言教員の教員差が大きすぎる。
- ・橋本先生だから それ以外の場合は妥当でない
- ・オフィスアワー、助言教員制度は形だけで一度も会ったことがない
- ・助言教員からアドバイスは特になかった。

(32) 問30及び問31の二つの間で「どちらかと言えば、いいえ」または「いいえ」と答えた場合、なぜ学修時間を充分使わなかったのか。また、なぜ学修内容を十分に消化・理解できなかったのかその理由。

- ・遊びに時間を費やしてしまったから。
- ・教養研究室に入り、具体的な体験から学んだ知識でない身に付かないと考えたからです。数学や物理といったツール学問に関しては取り組みました。また、イメージをつかむ程度でよいと考えたため、講義を聞くだけで十分だと思いました。
- ・講義の時点で内容を理解できず、ノートを見なおしても理解できず、質問をしても理解できず、大学での講義自体に嫌気が差し自発的に学習を行う意欲も失せてしまったから。
- ・内容がとても難解で理解しがたかった。
- ・テストに出る範囲や授業に出た範囲等に学習内容が偏ってしまい、履修した内容を実際に活用できる自信がない。
- ・二年前期に単位をとるため、テストで点数を取ることに必死でほぼ暗記に近い方法をとってしまったため
- ・自分の中では理解できたつもりだったが、成績はよくなかったから。
- ・講義を多くとり過ぎたため
- ・教科書に書いてあることを当たり前のようには話すが、難しすぎて理解できない場合が多い。具体的な話しをしてくれない場合が多い。
- ・充分というのがそもそもどういう線引きなのか少しわからない。完全には理解できるところには、まだまだ学部の間にはできると思っていない
- ・学習方法が不適當だったから。もっと教授や大学の施設などを有効活用すべきだった。
- ・成績があまり良くなかったため。
- ・興味ないから
- ・専門的なものになるほど、ひとつの科目の内容を理解するには、基礎となる他の科目をよく理解しておく必要があるため。
- ・アルバイトのために十分な学習時間が確保できなかった。
- ・授業中起きていられないから
- ・いろいろな科目が被って十分できない科目が出てくる。いろいろしていると学習の時間自体多くとれない。
- ・講義の内容についていけず、何を学習すればいいか分からなくなってしまったから
- ・遊びやサークル活動を優先させることがしばしばあったから。
- ・自分にあまく、徒らに時間を潰してしまったから。
- ・自分の勉強の仕方が悪いから

- ・学費のためにバイトをしているが、両立できなかったため。
- ・バイトなどの予定ごまか立てられず、勉強時間を確保しづらかった。
- ・興味が持てず、日頃からあまり勉強していない科目があったため。
- ・学費と生活費を稼ぐためにバイトをしており、学習時間の確保が難しい。
- ・自分自身の勉強意欲に問題があると思います
- ・やる気が足りなかった。時間が足りなかった。
- ・サークル活動に時間を割いていたから。
- ・授業内容の反復が十分ではなかったから
- ・内容が難しかった。そのため学修意欲も湧かなかった。
- ・怠けてしまった
- ・後回しにしたから
- ・やってることが、どういう形で現実に現れるのかのイメージがしづらい
- ・自分で理解していないけど、理解したように思ってしまったから。
- ・自主学習の時間が短すぎた。もっと勉強に時間を費やすべきだった。
- ・復習の時間が足りなかった
- ・テスト前にまとめてやれば大丈夫だと考えていた。
- ・授業で理解できなかった部分が多く、一人で復習するのが難しかったので勉強しようと思っても続かず勉強に飽きて結局時間も長く続かなかった。そのため、テスト前に焦って友達と一から理解しなければならなかった。
- ・無駄な時間が多かった。
- ・理解することに努めてきたが、全く理解できない範囲ができてしまい、即座に対応しようと自分で色々調べたが結局かなり先の知識で理解したころにはやってる内容がわからなくなった。